

様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン カッスイガクイン 学校法人活水学院							
フリガナ大学の名称	カッスイジョンダイガク 活水女子大学 (Kwassui Women's University)							
大学本部の位置	長崎県長崎市東山手町1番50号							
大学の目的	<p>本学は、キリスト教主義に基づき、教育基本法並びに学校教育法の定めるところに準拠して、女子に高等教育を行うことを目的とする。</p> <p>この目的を達成するため、生涯教育の展望に立ちつつ、国際的視野を有する広い教養と高度の専門的知識を涵養し、もって地域社会並びに人類社会の福祉と発展に寄与しうる人間の育成を期する。</p>							
新設学部等の目的	<p>伝統ある建学の精神にもとづき、人間・文化・社会のあり方について、日本語や外国語など、主に「言葉」という知的手段を活用しさまざまな学術的視点から広くかつ深く学び、社会に貢献できる人間の育成を目的とする。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	国際文化学部 [Faculty of International Cultural Studies]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	長崎県長崎市 東山手町1番50号
	国際文化学科 [Department of International Cultural Studies]	4	70	—	280	学士 (国際文化)	令和6年4月 第1年次	
	計		70	—	280			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>国際文化学部英語学科（廃止） (△40)</p> <p>国際文化学部日本文学学科（廃止） (△40)</p> <p>音楽学部音楽学科（廃止） (△35)</p> <p>※令和6年4月学生募集停止</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実習	計			
	国際文化学部 国際文化学科	106 科目	76 科目	7 科目	189 科目	124 単位		

	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員	
			教授	准教授	講師	助教	計		
新 設 分	国際文化学部 国際文化学科		人 10 (4)	人 5 (3)	人 9 (3)	人 1 (0)	人 25 (10)	人 0 (0)	人 27 (28)
	計		10 (4)	5 (3)	9 (3)	1 (0)	25 (10)	0 (0)	27 (28)
既 設 分	健康生活学部 食生活健康学科		4 (4)	4 (4)	4 (4)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	6 (6)
	生活デザイン学科		4 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	14 (14)
	子ども学科		4 (4)	2 (2)	5 (5)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	25 (25)
	看護学部 看護学科		8 (8)	2 (2)	7 (7)	4 (4)	21 (21)	0 (0)	60 (60)
	計		20 (20)	10 (10)	18 (18)	5 (5)	53 (53)	0 (0)	105 (105)
合 計			30 (24)	15 (13)	27 (21)	6 (5)	78 (63)	0 (0)	132 (133)
教員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
			人		人		人		
	事務職員		32 (38)		27 (22)		59 (60)		
	技術職員		3 (3)		20 (20)		23 (23)		
	図書館専門職員		4 (4)		2 (0)		6 (4)		
	その他の職員		0 (0)		2 (2)		2 (2)		
計		39 (45)		51 (44)		90 (89)			
校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地		34,244.14 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	34,244.14 m <sup>2</sup>			
	運動場用地		10,299.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	10,299.00 m <sup>2</sup>			
	小 計		44,543.14 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	44,543.14 m <sup>2</sup>			
	そ の 他		3,928.32 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	3,928.32 m <sup>2</sup>			
	合 計		48,471.46 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	48,471.46 m <sup>2</sup>			
		長崎市脇岬町 借用面積： 10,299.00 m <sup>2</sup> 借用期間：9年							
		大村市久原2丁目 借用面積： 9,530.72 m <sup>2</sup> 借用期間：37年							

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		30,734.05 m <sup>2</sup> (30,734.05 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )	30,734.05 m <sup>2</sup> (30,734.05 m <sup>2</sup> )					
教室等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	49 室	18 室	91 室	5 室 (補助職員 2 人)	1 室 (補助職員 1 人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数					
		国際文化学科			25 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 [うち外国書] 冊	学術雑誌 [うち外国書] 冊	電子ジャーナル [うち外国書] 冊	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での 共用分 図書 305,935 冊 [68,000 冊] 学術雑誌 32,990 種 [32,990 種] (うち電子ジャーナル) 31,000 種 [31,000 種]		
	国際文化学科	112,000 [40,800] (109,880[40,680])	850 [300] (850 [300])	0 [0] (0 [0])	2,890 (2,830)					
	計	112,000 [40,800] (109,880[40,680])	850 [300] (850 [300])	0 [0] (0 [0])	2,890 (2,830)					
図 書 館		面 積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体		
		1,927 m <sup>2</sup>		135 席		325,000 冊				
体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		2,869.43 m <sup>2</sup>		弓道場						
経 の 積 及 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	届出学科全体  図書費には電子ジ ャーナル・データバ ースの整備費(運用 コスト含)を含む。
		教員 1 人当り 研究費等		50 千円	50 千円	50 千円	50 千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	－千円	－千円	
		図書購入費	1,045 千円	1,045 千円	1,045 千円	1,045 千円	1,045 千円	－千円	－千円	
	設備購入費	3,383 千円	3,383 千円	3,383 千円	3,383 千円	3,383 千円	－千円	－千円		
学生 1 人当り納付金		第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
		1,217 千円	967 千円	967 千円	967 千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の 維持方法の概要		補助金収入, 手数料収入, 資産運用収入等の事業活動収入を充当する。								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	活水女子大学 大学院								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設年度	所 在 地	
	文学研究科 英文学専攻 修士課程	年	人	年次 人	人	修士(文学)	倍	平成 2 年度	長崎県長崎市 東山手町 1 番 50 号	

既設大学の状況	大学の名称	活水女子大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	国際文化学部	4	80	—	320		0.65		
	英語学科	4	40	—	160	学士(英語)	0.63	昭和56年度	
	日本文化学科	4	40	—	160	学士(日本文化)	0.68	平成13年度	
	音楽学部	4	35	—	140		0.42		
	音楽学科	4	35	—	140	学士(音楽)	0.42	平成22年度	長崎県長崎市 東山手町1番50号
	健康生活学部	4	140	—	560		0.80		
	食生活健康学科	4	60	—	240	学士(栄養学)	0.65	平成14年度	
	生活デザイン学科	4	35	—	140	学士(家政学)	1.07	平成16年度	
	子ども学科	4	45	—	180	学士(子ども教育学)	0.80	平成16年度	
	看護学部	4	75	—	300		0.89		長崎県大村市
	看護学科	4	75	—	300	学士(看護学)	0.89	平成21年度	久原2丁目1246-3
事項	記入欄								
付属施設の概要	なし								

## 組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
活水女子大学				活水女子大学				
国際文化学部				国際文化学部				
英語学科	40	—	160		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和6年4月学生募集停止
日本文化学科	40	—	160		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和6年4月学生募集停止
				<u>国際文化学科</u>	<u>70</u>	—	<u>280</u>	学科の設置(届出)
音楽学部				音楽学部				
音楽学科	35	—	140		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和6年4月学生募集停止
健康生活学部				健康生活学部				
食生活健康学科	60	—	240		60	—	240	
生活デザイン学科	35	—	140		35	—	140	
子ども学科	45	—	180		45	—	180	
看護学部				看護学部				
看護学科	75	—	300		75	—	300	
計	330		1,320	計	285		1,140	
活水女子大学大学院				活水女子大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
英文学専攻(M)	6	—	12		6	—	12	
計	6	—	12	計	6	—	12	

### 設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行終了時における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
国際文化学部 英語学科 (廃止)	学士 (英語)	文学関係	国際文化学部国際文化学科	10	3	国際文化学部 国際文化学科	学士 (国際文化)	文学関係	国際文化学部英語学科	10	3
			その他	0	0				国際文化学部日本文化学科	11	5
			退職	0	0				音楽学部音楽学科	4	2
			計	10	3				計	25	10
国際文化学部 日本文化学科 (廃止)	学士 (日本文化)	文学関係	国際文化学部国際文化学科	11	5						
			その他	0	0						
			退職	0	0						
			計	11	5						
音楽学部 音楽学科 (廃止)	学士 (音楽)	音楽関係	国際文化学部国際文化学科	4	2						
			その他	0	0						
			退職	4	2						
			計	8	4						

## 基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
昭和56年4月	文学部英文学科設置 (英文学科のカリキュラム変更は平成12年まで略)	文学	設置認可(大学)
	文学部日本文学科設置 (日本文学科のカリキュラム変更は平成12年まで略)	文学	
平成3年4月	文学部臨時定員増 (100名→160名、平成11年度まで)	文学	学則変更
平成8年4月	文学部定員増 (英文学科50名→110名、 日本文学科50名→100名)	文学	学則変更
平成10年4月	文学部人間関係学科設置	文学	設置認可(学科)
平成12年4月	文学部臨時定員増廃止に伴う収容定員増 (英文学科110名→125名、 日本文学科100名→110名、人間関係学科 75名→100名)	文学	学則変更
平成13年4月	文学部英文学科を英語学科へ名称変更	文学	名称変更(学科)
	文学部現代日本文化学科設置	文学	設置認可(学科)
	文学部日本文学科の募集停止	—	学生募集停止(学科)
平成16年4月	文学部英語学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
平成17年4月	文学部現代日本文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
	文学部日本文学科廃止	文学	学則変更
平成18年4月	文学部収容定員変更 (英語学科125名→80名、現代日本文化学科 110名→60名、人間関係学科100名→60名)	文学	学則変更
平成20年4月	文学部英語学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
	文学部現代日本文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
平成21年4月	文学部収容定員変更 (英語学科80名→50名、現代日本文化学科 60名→50名、人間関係学科60名→50名)	文学	学則変更

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
平成23年4月	文学部英語学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
平成25年4月	文学部収容定員変更 (英語学科50名→40名、現代日本文化学科 50名→40名、人間関係学科50名→40名)	文学	学則変更
平成26年4月	文学部英語学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
	文学部現代日本文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
平成30年4月	文学部名称変更 文学部→国際文化学部 現代日本文化学科→日本文化学科	文学	名称変更(学部) 名称変更(学科)
	文学部(国際文化学部)収容定員変更 (文学部120名→国際文化学部80名、文学部 人間関係学科募集停止)	文学	学則変更 学生募集停止(学科)
令和3年4月	文学部人間関係学科廃止	—	学則変更

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要																
(国際文化学部国際文化学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養	建学の精神	キリスト教学Ⅰ	1通	2			○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ	2通	2			○								兼1	
		キリスト教学Ⅲ	3通	2			○			1						
		キリスト教学Ⅳ	4通	2			○								兼1	
	教養必修科目	教養セミナー	1前	1				○		1		1			兼3	
		キャリアデザインセミナー	1後	1				○			1	1			兼3	
		情報処理基礎	1前	2			○						1			
		データサイエンス入門	1後	2			○					1				
		健康・スポーツ実技Ⅰ	1後	1					○						兼1	
		健康・スポーツ実技Ⅱ	2前	1					○						兼1	
	英語	英語Ⅰ	1前	1				○		1	2				共同	
		英語Ⅱ	1後	1				○		1	2				共同	
英語Ⅲ		2前	1				○		1	2				共同		
英語Ⅳ		2後	1				○		1	2				共同		
教育科目	文化	日本の文化	1前		2		○		1						オムニバス方式  8単位以上	
		西洋の文化	1前		2		○		1							
		長崎の文化	1前		2		○		1							
		演奏の楽しみ	1後		2				1		1					
		音楽の世界	1前		2		○		1							
	社会	ジェンダーからみる社会	1後		2		○									兼1
		日本国憲法	1後		2		○		1							
		異文化理解演習	1後		2			○		1						兼1
	生活	現代社会と教育	1後		2		○					1				
		現代社会と経済	1前		2		○									
		心理学	1前		2		○									兼1
		生活と科学	1前		2		○									兼1
キャリア	食べ物と栄養	1前		2		○								兼1		
	健康・スポーツ論	1前		2		○								兼1		
	SPI非言語分野対策演習	2後		2			○			1				兼1		
特別	キャリア形成講座	3後		2		○				1				兼1		
	TOEIC対策講座	1前		2			○			1				兼1		
	インターンシップ	1前		2				○						兼1		
特別	特別講義	1前		2		○								兼1		
	特別演習	1前		2			○							兼1		
小計 (34科目)			—	20	40	0		—	6	2	3	1	0	兼15		

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際文化学部国際文化学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専 門 教 育 科 目	基盤科目	国際文化入門	1前	2			○			3	1	2			兼1 オムニバス 教免必修 子ども 学科と同時開講
		異文化コミュニケーション論	1後	2			○								
		女性リーダーシップ論	2後	2			○					1			
		基礎セミナーⅠ	1前	2				○		1	2	1			
		基礎セミナーⅡ	1後	2				○		2	2				
		基礎セミナーⅢ	2前	2				○		1	2	1			
		基礎セミナーⅣ	2後	2				○		1	2	1			
		卒業研究	4通	6				○		1	2	3			
	外国語科目	中国語Ⅰ	1前		1			○							兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 同一言語から 4単位修得 (選択必修)
		中国語Ⅱ	1後		1			○							
		中国語Ⅲ	2前		1			○							
		中国語Ⅳ	2後		1			○							
		韓国語Ⅰ	1前		1			○							
		韓国語Ⅱ	1後		1			○							
		韓国語Ⅲ	2前		1			○							
		韓国語Ⅳ	2後		1			○							
	国際文化系	多文化共生論	1前		2			○							教免必修 教免必修
		文化と社会	1後		2			○		1					
		文化人類学	2前		2			○			1				
		アジアの文化	2後		2			○			1				
		グローバルスタディーズ	2前		2			○			1				
		Japanese Culture StudiesⅠ	2前		2			○				1			
		Japanese Culture StudiesⅡ	3前		2			○				1			
		英語圏の文化	2後		2			○		1					
		英米文学入門Ⅰ	1後		2			○		1					
		英米文学入門Ⅱ	2前		2			○		1					
		英米文学演習	2後		2			○		1					
		Comparative Cultural Studies	2後		2			○				1			
	国際キャリア系	英語とキャリア	1前		2			○				1			兼1 教免必修  共同 兼1 兼1
		グローバル企業を知る	1後		2			○				1			
		English for Hospitality and Tourism	2前		2			○				1			
		国際コミュニケーション論	2前		2			○							
		語学ボランティア演習	2後		2			○			1				
		Business English for Beginners	2後		2			○			1				
		Business Communication	3前		2			○				2			
		通訳ガイド演習Ⅰ	3前		2			○							
通訳ガイド演習Ⅱ		3後		2			○								
時事英語演習		3前		2			○			1					
翻訳入門	3後		2			○			1						
言語教育系	発音リズム法	1後		2			○			1				子ども学科と同時開講 教免必修 兼1 子ども学科と同時開講 兼1 子ども学科と同時開講 兼1 子ども学科と同時開講 兼1	
	言語学入門	2前		2			○			1					
	英語の発想と表現	2前		2			○								
	言語の意味と構造	2後		2			○			1					
	English Picture Book Studies	2後		2			○								
	Multicultural Education and Support	3後		2			○								
	Teaching English to ChildrenⅠ	3前		2			○								
Teaching English to ChildrenⅡ	3後		2			○									

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目（コース共通科目）	言語教育系	Reading Activities I	4前	2			○								兼1	子ども学科と同時開講
		Reading Activities II	4後	2			○								兼1	子ども学科と同時開講
		英語科教育法 I	2前	2		○			1							教免必修
		英語科教育法 II	2後	2		○			1							教免必修
		英語科教育法 III	3前	2		○			1							教免必修
		英語科教育法 IV	3後	2		○			1							教免必修
		言語習得論	3前	2		○			1							
		日本語教育概論	1後	2		○			1							
		日本語教育講義 I	2後	2		○					1					
		日本語教育講義 II	3前	2		○			1							
		日本語教育講義 III	3後	2		○					1					
	日本語教育実習	3前	2				○	1								
	日本語学系	日本語学概論	1前		2		○		1							
		日本語学講義 I	2前		2		○		1							
		日本語学講義 II	2後		2		○		1							
		日本語学講義 III	3後		2		○		1							
	長崎学系	長崎史	1後		2		○		1							
		長崎文化学	2前		2		○		1							
		現代長崎学	2後		2		○		1							
	音楽系	音楽理論基礎	1前		2		○		1							
		音楽表現 I	1前		2		○		2		2					共同※実習
		音楽表現 II	1後		2		○		2		2					共同※実習
		音楽史	2前		2		○				1					
		音楽メディア研究	2後		2		○				1					
		アートマネジメント論	3前		2		○				1					
	ビジネス系	情報実務総論	1前		2		○						1			
		情報リテラシー	1後		2		○						1			
		政治学	1後		2		○		1							
		経済学	2前		2		○				1					
		キャリアデザイン実習 I	2前		2			○			1					
		エアライン・ホスピタリティ講座	2後		2		○				1					
		広告論	2後		2		○				1					
		経営学	2後		2		○					1				
		民事法	2後		2		○		1							
		地域・行政と法	3後		2		○		1							
	ビジネスコンピューティング	3後		2		○						1				
	地域マネジメント論	3後		2		○					1					
	海外活動	海外ボランティア活動A	1前		2			○	1							
		海外ボランティア活動B	1前		2			○	1							
		海外インターンシップA	1前		2			○	1							
		海外インターンシップB	1前		2			○			1					
外国人留学生対象科目	アカデミック・ジャパニーズ I a	1前		2		○				1					業者	
	アカデミック・ジャパニーズ I b	1前		2		○									業者	
	アカデミック・ジャパニーズ I c	1前		2		○		1							業者	
	アカデミック・ジャパニーズ II a	1後		2		○				1					業者	
	アカデミック・ジャパニーズ II b	1後		2		○									業者	
	アカデミック・ジャパニーズ II c	1後		2		○		1							業者	
	アカデミック・ジャパニーズ III a	1前		2		○					1				業者	
	アカデミック・ジャパニーズ III b	1前		2		○						1			業者	
アカデミック・ジャパニーズ IV a	1後		2		○							1		業者		
アカデミック・ジャパニーズ IV b	1後		2		○								1	業者		
小計(98科目)		—	20	172	0	—			8	5	9	1	0	兼8		

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
専 門 教 育 科 目	英語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン コ ー ス	Academic English I		2			○				2				共同・教免必修		
		Academic English II		2			○				2				共同・教免必修		
		Academic English III		1			○				2				共同・教免必修		
		Academic English IV		1			○				2				共同・教免必修		
		Academic English V		1			○				2				共同		
		Academic English VI		1			○				2				共同		
		Academic English VII		1			○				2				共同		
		Academic English VIII		1			○				2				共同		
		Paragraph Writing		2			○				1					これらの科目から28単位 以上修得 そのうち、8単位までは他 コース専門科目から修得 することができる	
		English Media Literacy		2			○				1						
		Essay Writing		2			○				1						
		Academic Writing		2			○				1						
		English Pronunciation		2			○				1				兼1		共同・教免必修
		Advanced Reading I		1			○			1	1						共同
		Advanced Reading II		1			○			1	1						共同
		Advanced Reading III		1			○			1	1						共同
		Advanced Reading IV		1			○			1	1						共同
		英語コミュニケーション特講		2			○			1							
		英語コミュニケーション専門セミナーⅠ		2			○			1	1					共同・英語コ ミュニケ ーションコ ース必 修	
	英語コミュニケーション専門セミナーⅡ		2			○			1	1							
	英語コミュニケーション専門セミナーⅢ		2			○					2						
	英語コミュニケーション専門セミナーⅣ		2			○					2						
	日本文化 コ ー ス	日本の文化入門		2			○			1	1					オムニバス方式	
		古典文学の概要を学ぶ		2			○			1						これらの科目 から28単位以 上修得 そのうち、8単 位までは他 コース専門科 目から修得す ることができる	
		現代文学の概要を学ぶ		2			○			1	1						
		日本史の概要を学ぶⅠ		2			○			1							
		日本史の概要を学ぶⅡ		2			○			1							
		日本文学特論Ⅰ		2			○				1						
		日本文学特論Ⅱ		2			○				1						
		日本文化史特論Ⅰ		2			○			1							
		日本文化史特論Ⅱ		2			○			1							
		コンテンツ創作		2			○				1						
		サブカルチャー論		2			○										
		メディアのための文章表現		2			○										
		日本文化のフィールドワーク		2			○			1							
		アナウンストレーニング		2			○				1						
		日本文化特論		2			○				1						
		カルチュラル・スタディーズⅠ		2			○			1	1					共同・日本文 化コース必修	
		カルチュラル・スタディーズⅡ		2			○			1	1						
		カルチュラル・スタディーズⅢ		2			○			1	1						
カルチュラル・スタディーズⅣ			2			○			1	1							
地域・ビ ジ ネ ス コ ー ス	マーケティング論		2			○					1				これらの科目 から28単位以 上修得 そのうち、8単 位までは他 コース専門科 目から修得す ることができる		
	マスコミュニケーション論		2			○				1							
	簿記・会計論		2			○											
	地域経済学		2			○					1						
	ビジネスデータ分析		2			○					1						
	観光学		2			○											
	公共経営論		2			○					1						
	女性起業論		2			○				1							
	キャリアデザイン実習Ⅱ		8					○		1	1					共同	
	まちづくりプログラムⅠ		2			○			1								
	まちづくりプログラムⅡ		2			○			1								
地域・ビジネス特講		2			○				1	1				共同			

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 教育 科目  (コース専門科目) 地域・ビジネス コース	地域・ビジネスセミナーⅠ	3前		2			○			1	1				共同・地域・ ビジネスコー ス必修
	地域・ビジネスセミナーⅡ	3後		2			○			1	1				
	地域・ビジネスセミナーⅢ	4前		2			○			1	1				
	地域・ビジネスセミナーⅣ	4後		2			○			1	1				
	小計(57科目)	—	0	110	0		—		6	4	5	0	0	兼5	
合計(189科目)		—	40	322	0		—	10	5	9	1	0	兼27		
学位又は称号		学士(国際文化)		学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
教養教育科目の必修科目から20単位、教養教育科目の選択科目から8単位以上、合計28単位以上を修得すること。専門教育科目の必修科目20単位、外国語科目4単位以上、選択科目72単位以上、合計96単位以上を修得すること。総合計124単位以上を修得すること。							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要																		
(国際文化学部英語学科)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教育科目	建学の精神	キリスト教学Ⅰ	1通	1			○							兼1	4単位以上修得			
		キリスト教学Ⅱ	2通	1			○							兼1				
		キリスト教学Ⅲ	3前	1			○			1								
		キリスト教学Ⅳ	4前	1			○									兼1		
	教養コア科目	教養セミナー	1前	1				○		1	1				兼4	8単位以上修得 いづれか選択必修		
		キャリアデザインセミナー	1後	1				○		1	1				兼4			
		シチズンシップ	1前	2			○								兼1			
		日本国憲法	1後		2		○								兼1			
		ジェンダーからみる社会	1後		2		○								兼1			
		人間と環境	2前		2		○								兼1			
		ウェルネス	2前	2			○								兼2			
	教養テーマ別科目	文化・芸術	日本の文学	1前		2		○								兼1	8単位以上修得 オムニバス	
			西洋の文学	1後		2		○		1						兼1		
			日本の文化史	1前		2		○								兼1		
			西洋の文化史	1前		2		○		1						兼1		
			音楽の世界	1前		2		○								兼1		
			長崎の文化	1前		2		○								兼2		
		社会・経済・国際	異文化理解演習	1後		2			○		1							8単位以上修得
			国際関係論	1後		2		○								兼1		
			現代社会と教育	1後		2		○								兼1		
現代社会と経済			1前		2		○								兼1			
金融・経済入門(寄附講座)			1後		2		○								兼1			
現代社会と法律			1前		2		○								兼1			
科学・環境			暮らしと科学	1後		2		○								兼1		
	生活とデザイン	1前		2		○								兼1				
	ITの発展と生活	1後		2		○								兼1				
	生物学	1前		2		○								兼1				
医療・生活	化学	1前		2		○								兼1				
	心理学	1前		2		○								兼1				
	生命の科学	1前		2		○								兼1				
	食べ物と栄養	1前		2		○								兼1				
情報	現代社会と保健医療	1後		2		○								兼7	オムニバス			
	健康・スポーツ論	1前		2		○								兼1				
情報	情報処理基礎	1前	2			○								兼1	2単位以上修得			
	情報科学	1後		2		○								兼1				
健康・スポーツ科学	健康・スポーツ実技Ⅰ	1後	1					○						兼1	2単位修得			
	健康・スポーツ実技Ⅱ	2前	1					○						兼1				
キャリア支援・特別科目	アプリケーション演習	1後		2			○							兼1	4単位以上修得			
	SPI非言語分野対策演習	2後		2			○			1								
	キャリア形成講座	3後		2		○			1	1								
	TOEIC対策講座	1前		1			○		1	1								
	インターンシップ	1前		2				○	1									
	特別講義	1前		2		○								兼3				
	特別演習	1前		1			○							兼1				
	寄附講座	1前		2		○								兼1				
英語	英語Ⅰ	1前	1				○			1				兼1				
	英語Ⅱ	1後	1				○		1	1	3							
	英語Ⅲ	2前	1				○		2		2							
	英語Ⅳ	2後	1				○		1	1	3							
小計(49科目)			—	18	66	0		—	3	1	3	0	0	兼30				

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
専 門 教 育 科 目	フランス語Ⅰ	1前		1			○								兼1	同一言語 4単位修得 (選択必修)
	フランス語Ⅱ	1後		1			○								兼1	
	フランス語Ⅲ	2前		1			○								兼1	
	フランス語Ⅳ	2後		1			○								兼1	
	ドイツ語Ⅰ	1前		1			○								兼1	
	ドイツ語Ⅱ	1後		1			○								兼1	
	ドイツ語Ⅲ	2前		1			○								兼1	
	ドイツ語Ⅳ	2後		1			○								兼1	
	中国語Ⅰ	1前		1			○								兼1	
	中国語Ⅱ	1後		1			○								兼1	
	中国語Ⅲ	2前		1			○								兼1	
	中国語Ⅳ	2後		1			○								兼1	
	韓国語Ⅰ	1前		1			○								兼1	
	韓国語Ⅱ	1後		1			○								兼1	
	韓国語Ⅲ	2前		1			○								兼1	
	韓国語Ⅳ	2後		1			○								兼1	
	実用中国語Ⅰ	2前		1			○								兼1	
実用中国語Ⅱ	2後		1			○								兼1		
実用韓国語Ⅰ	2前		1			○								兼1		
実用韓国語Ⅱ	2後		1			○								兼1		
小計 (20科目)		—	0	20	0		—		0	0	0	0	0	0	兼6	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科	基盤科目	English Pronunciation	1前	2			○		1	1					教免必修		
		Academic Listening I	2前	1			○		1		1						
		Academic Listening II	2後	1			○		1		1						
		Academic Listening III	3前	1			○		1		1						
		English Seminar I	1前	2			○		1	1							
		English Seminar II	1後	2			○		1	1							
		English Seminar III	2前	1			○		1	1							
		English Seminar IV	2後	1			○		1	1							
		English Seminar V	3前	1			○		2								
		English Seminar VI	3後	1			○		2								
		English Seminar VII	4前	1			○		1	1							
		English Seminar VIII	4後	1			○		1	1							
		Academic English I	1前	2			○					2			教免必修		
		Academic English II	1後	2			○					2			教免必修		
		Academic English III	2前	1			○					2			教免必修		
		Academic English IV	2後	1			○					2			教免必修		
		Academic English V	3前	1			○					3					
		Academic English VI	3後	1			○					3					
		Academic English VII	4前	1			○					3					
		Academic English VIII	4後	1			○					3					
		Advanced English I	3前	1			○			2		2					
		Advanced English II	3後	1			○			1	1	3					
		Advanced English III	4前	1			○			2		2					
		Advanced English IV	4後	1			○			1	1	3					
		English Media Literacy	1後	2			○					1					
		Paragraph Writing	1前	2			○					1					
Essay Writing	1後	2			○					2							
Academic Writing	3前		2		○					1				教免必修			
専門教育科	異文化理解系	異文化コミュニケーション論	1後	2			○		1						教免必修子ども学科と同時開講		
		異文化トレーニング	2後		2		○		1								
		Introduction to Multiculturalism	3前		2		○							兼1	子ども学科と同時開講		
		British Culture	1前		2		○		1								
		American Culture	1後		2		○		1								
		Comparative Cultural Studies	3後		2		○				1						
		英語児童文学入門	2前		2		○		1								
		英米文学入門Ⅰ	2後	2			○		1						教免必修		
		英米文学入門Ⅱ	3前	2			○		1						教免必修		
		英米文学演習Ⅰ	3前		2			○		1							
		英米文学演習Ⅱ	3後		2			○		1							
		Japanese Culture Studies	2前		2		○		1								
		Asian Cross-Cultural Studies	2後		2			○			1						
		Japan in English Media	3前		2			○				1					
		Japanese Film Studies	3後		2			○				1					
		専門教育科	国際キャリア系	英語とキャリア	1前	2			○		1						
				グローバル企業を知るⅠ	1後		2		○							兼1	日本文化学科と同時開講
グローバル企業を知るⅡ	2前				2		○		1								
English for Hospitality and Tourism	2前				2		○							兼1	日本文化学科と同時開講		
ビジネス英語入門	2後				2		○		1								
ビジネス・ライティング	3前				2		○				1	2					
ビジネス・プレゼンテーション	3後				2		○										
時事英語演習	3前				2		○				1						
翻訳入門	3後				2		○				1						
国際コミュニケーション論	2前				2		○								兼1	教免必修	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	国際キャリア系	語学ボランティア演習	2後	2			○			1					兼1	日本文化学科と同時開講
	国際キャリア系	通訳ガイド演習Ⅰ	3前	2			○								兼1	
	国際キャリア系	通訳ガイド演習Ⅱ	3後	2			○								兼1	
	国際キャリア系	経営学	2後	2			○								兼1	
	国際キャリア系	観光学	3後	2			○								兼1	日本文化学科と同時開講
	英語教育系	言語学入門	2前	2			○			1					兼1	教免必修
	英語教育系	言語の意味と構造	2後	2			○			1					兼1	
	英語教育系	Language Acquisition	3前	2			○			1					兼1	教免必修
	英語教育系	History of English	3後	2			○				1				兼1	
	英語教育系	英語の発想と表現入門	2前	2			○								兼1	教免必修
	英語教育系	英語の発想と表現研究	2後	2			○								兼1	
	英語教育系	英語科教育法Ⅰ	2前	2			○			1					兼1	教免必修
	英語教育系	英語科教育法Ⅱ	2後	2			○			1					兼1	
	英語教育系	英語科教育法Ⅲ	3前	2			○				1				兼1	教免必修
	英語教育系	英語科教育法Ⅳ	3後	2			○				1				兼1	
	英語教育系	発音リズム法	1後	2				○		1					兼1	子ども学科と同時開講
	英語教育系	English Picture Book Studies	2後	2				○							兼1	子ども学科と同時開講
	英語教育系	Teaching Young Learners WorkshopⅠ	3前	2				○							兼1	子ども学科と同時開講
	英語教育系	Teaching Young Learners WorkshopⅡ	3後	2				○							兼1	子ども学科と同時開講
	英語教育系	Teaching Young Learners PracticeⅠ	3前	1					○						兼1	子ども学科と同時開講
	英語教育系	Teaching Young Learners PracticeⅡ	3後	1					○						兼1	子ども学科と同時開講
	英語教育系	Reading ActivitiesⅠ	4前	2				○							兼1	子ども学科と同時開講
	英語教育系	Reading ActivitiesⅡ	4後	2				○							兼1	子ども学科と同時開講
海外活動	海外ボランティア活動A	1前	2				○		1							
海外活動	海外ボランティア活動B	1前	2				○		1							
海外活動	海外インターンシップA	1前	2				○		1							
海外活動	海外インターンシップB	1前	2				○			1						
卒業研究	卒業研究セミナー	3後	2				○		1	1						
卒業研究	卒業研究	4通	6				○		2	1	2					
小計(82科目)			—	53	94	0	—	—	4	2	5	0	0	兼6		
合計(151科目)			—	71	180	0	—	—	4	2	5	0	0	兼40	—	
学位又は称号		学士(英語)		学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
教養教育科目の必修科目から18単位、教養教育科目の選択科目から10単位、専門教育科目の外国語科目から4単位、学科専門教育科目の必修科目から53単位、学科専門教育科目の選択科目から39単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:24単位(半期))							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要																		
(国際文化学部日本文化学科)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教育科目	建学の精神	キリスト教学Ⅰ	1通	1			○								兼1	4単位以上修得		
		キリスト教学Ⅱ	2通	1			○								兼1			
		キリスト教学Ⅲ	3前	1			○			1								
		キリスト教学Ⅳ	4前	1			○								兼1			
	教養コア科目	教養セミナー	1前	1				○			2					兼4	8単位以上修得 いずれか選択必修	
		キャリアデザインセミナー	1後	1				○			2					兼4		
		シチズンシップ	1前	2			○									兼1		
		日本国憲法	1後		2		○			1						兼1		
		ジェンダーからみる社会	1後		2		○									兼1		
		人間と環境	2前		2		○									兼1		
		ウェルネス	2前	2			○									兼2		
	教養テーマ別科目	文化・芸術	日本の文学	1前		2		○			1						兼1	8単位以上修得 オムニバス
			西洋の文学	1後		2		○									兼1	
			日本の文化史	1前		2		○			1						兼1	
			西洋の文化史	1前		2		○									兼1	
			音楽の世界	1前		2		○									兼1	
			長崎の文化	1前		2		○			1						兼1	
		社会・経済・国際	異文化理解演習	1後		2			○								兼1	
			国際関係論	1後		2		○				1					兼1	
			現代社会と教育	1後		2		○			1						兼1	
現代社会と経済			1前		2		○									兼1		
金融・経済入門(寄附講座)			1後		2		○									兼1		
現代社会と法律			1前		2		○			1						兼1		
科学・環境			暮らしと科学	1後		2		○									兼1	
	生活とデザイン	1前		2		○									兼1			
	ITの発展と生活	1後		2		○				1					兼1			
	生物学	1前		2		○									兼1			
	化学	1前		2		○									兼1			
	医療・生活	心理学	1前		2		○									兼1		
生命の科学		1前		2		○									兼1			
食べ物と栄養		1前		2		○									兼1			
現代社会と保健医療		1後		2		○									兼7			
健康・スポーツ論		1前		2		○									兼1			
情報	情報処理基礎	1前	2			○							1			2単位以上修得		
	情報科学	1後		2		○							1					
ソス健康科学Ⅰ	健康・スポーツ実技Ⅰ	1後	1					○							兼1	2単位修得		
	健康・スポーツ実技Ⅱ	2前	1					○							兼1			
キャリア支援・特別科目	アプリケーション演習	1後		2			○						1			4単位以上修得		
	SPI非言語分野対策演習	2後		2			○								兼1			
	キャリア形成講座	3後		2		○									兼1			
	TOEIC対策講座	1前		1		○									兼1			
	インターンシップ	1前		2				○							兼1			
	特別講義	1前		2		○				1								
	特別演習	1前		1				○										
寄附講座	1前		2		○				1									
英語	英語Ⅰ	1前	1				○								兼3	兼3 兼3 兼3 兼3		
	英語Ⅱ	1後	1				○								兼3			
	英語Ⅲ	2前	1				○								兼3			
	英語Ⅳ	2後	1				○								兼3			
小計(49科目)			-	18	66	0			-	3	4	0	1	0	兼23			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	外国語科目	フランス語Ⅰ	1前	1			○								兼1	同一言語 4単位修得 (選択必修)
		フランス語Ⅱ	1後	1			○								兼1	
		フランス語Ⅲ	2前	1			○								兼1	
		フランス語Ⅳ	2後	1			○								兼1	
		ドイツ語Ⅰ	1前	1			○								兼1	
		ドイツ語Ⅱ	1後	1			○								兼1	
		ドイツ語Ⅲ	2前	1			○								兼1	
		ドイツ語Ⅳ	2後	1			○								兼1	
		中国語Ⅰ	1前	1			○								兼1	
		中国語Ⅱ	1後	1			○								兼1	
		中国語Ⅲ	2前	1			○								兼1	
		中国語Ⅳ	2後	1			○								兼1	
		韓国語Ⅰ	1前	1			○								兼1	
		韓国語Ⅱ	1後	1			○								兼1	
		韓国語Ⅲ	2前	1			○								兼1	
		韓国語Ⅳ	2後	1			○								兼1	
		実用中国語Ⅰ	2前	1			○								兼1	
		実用中国語Ⅱ	2後	1			○								兼1	
		実用韓国語Ⅰ	2前	1			○								兼1	
		実用韓国語Ⅱ	2後	1			○								兼1	
小計(20科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼6		
専門教育科目	学科共通セミナー科目	基礎セミナーⅠ	1前	2			○		1	1						
		基礎セミナーⅡ	1後	2			○		1	1						
		基礎セミナーⅢ	2前	2			○			2						
		基礎セミナーⅣ	2後	2			○		1	1						
		専門セミナーⅠ	3前	2			○		4	2						
		専門セミナーⅡ	3後	2			○		4	2						
		専門セミナーⅢ	4前	2			○		4	2						
		専門セミナーⅣ	4後	2			○		4	2						
	卒業論文・卒業制作			6					1							
	日本語日本文学コース専門教育科目	基盤科目	日本文学概論	1前	2		○		1							*教免必修
			日本語学概論	1前	2		○		1							*教免必修
			日本語教育概論	1後	2		○		1							*教免必修
			文化研究入門	1後	2		○			1						*
			東アジア研究入門	1後	2		○		1							*
		日本文学	日本文学講義Ⅰ(古典文学史)	1前	2		○		1							*教免必修
			日本文学講義Ⅱ(近現代文学史)	1後	2		○			1						*教免必修
			日本文学講義Ⅲ(古典)	2前	2		○		1							教免必修
			日本文学講義Ⅳ(古典)	2後	2		○		1							教免必修
			日本文学講義Ⅴ(近現代)	3前	2		○			1						
			日本文学講義Ⅵ(読解1)	3前	2		○		1							
日本文学講義Ⅶ(読解2)			3後	2		○			1							
漢文	漢文学講義Ⅰ	2後	2		○								兼1	教免必修		
	漢文学講義Ⅱ	3前	2		○								兼1	教免必修		
日本語学	日本語学講義Ⅰ(歴史)	1後	2		○								兼1	教免必修		
	日本語学講義Ⅱ(意味と構造)	2前	2		○		1							*教免必修		
	日本語学講義Ⅲ(音声)	2後	2		○		1							*教免必修		
	日本語学講義Ⅳ(人間関係・状況と言語)	3後	2		○		1							教免必修		
日本語教育	日本語教育講義Ⅰ(コースデザイン論)	2後	2		○					1						
	日本語教育講義Ⅱ(言語政策:地域日本語教育)	3前	2		○		1									
	日本語教育講義Ⅲ(教育・心理・言語習得)	3後	2		○					1						
書道	書道Ⅰ	1前	1		○								兼1	中学一種教免必修		
	書道Ⅱ	1後	1		○								兼1	中学一種教免必修		
日本理解	日本史講義Ⅰ	3前	2		○		1							*		
	日本史講義Ⅱ	3後	2		○		1							*		
	文化研究	2前	2		○		1							*		
	東アジア研究	3後	2		○				1					*		



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	語学留学	語学留学Ⅰ	1前	8			○		1					1セメスターの海外留学 短期研修等
		語学留学Ⅱ	1後	8			○		1					
		海外語学研修Ⅰ	1前	2			○		1					
		海外語学研修Ⅱ	1後	2			○		1					
	外国語関連科目 外国人留学生対象科目	アカデミック・ジャパニーズⅠa	1前	2			○				1			兼1
		アカデミック・ジャパニーズⅠb	1前	2			○		1					兼1
		アカデミック・ジャパニーズⅠc	1前	2			○							兼1
		アカデミック・ジャパニーズⅡa	1後	2			○				1			兼1
		アカデミック・ジャパニーズⅡb	1後	2			○		1					兼1
		アカデミック・ジャパニーズⅡc	1後	2			○							兼1
		アカデミック・ジャパニーズⅢa	1前	2			○							兼1
		アカデミック・ジャパニーズⅢb	1前	2			○				1			兼1
		アカデミック・ジャパニーズⅣa	1後	2			○							兼1
		アカデミック・ジャパニーズⅣb	1後	2			○				1			兼1
小計 (97科目)			—	22	208	0	—	5	4	1	1	0	兼12	
合計 (166科目)			—	40	294	0	—	6	4	1	1	0	兼41	
学位又は称号		学士 (日本文化)		学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
教養教育科目の必修科目から18単位、教養教育科目の選択科目から10単位、専門教育科目の外国語科目から4単位、学科専門教育科目の必修科目から22単位、学科専門教育科目の選択科目から70単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:24単位(半期))							1学年の学期区分			2学期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

様式第2号（その3の1）

授 業 科 目 の 概 要			
(国際文化学部国際文化学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	建 学 の 精 神	キリスト教学Ⅰ	前期は「建学の精神」を学ぶ意義、また、活水学院の歴史および伝統などのキリスト教の基本的な事柄についての概論的な知識を身につけるようになる。後期は聖書の御言葉について触れる。旧約聖書、新約聖書の物語の学びを通して、そこから何を読み取れるのかを共に考えることで、世界の宗教としてのキリスト教の理解の幅が広がる。講義のキーワードは「キリスト教の基礎」「旧約聖書・新約聖書の思想」である。本講義を通して学生は、聖書の語るキリスト教信仰の基本的な事柄について具体的に学ぶ。キリスト教について学ぶことで、キリスト教に親しみをもち、その教えや信仰の理解を深める。そして活水女子大学の「建学の精神」の理解を深めていくことができ、キリスト教を身近に感じることが目的である。
		キリスト教学Ⅱ	旧約聖書の構造を始め、基本的な事柄を通して、その思想及び現代における意義を検証する。建学精神の母体となった旧約聖書の世界と思想を学ぶことによって、学生が以下の4点を説明できるようになる。 (1) 旧約聖書と新約聖書の異同 (2) 旧約聖書の主な構成 (3) 旧約聖書の強調点 (4) 私たちへの影響 従って、キリスト教の精神を一つの新しい世界観として学び、日常に生かす。
		キリスト教学Ⅲ	西アジアとヨーロッパにおけるキリスト教の成立と発展を述べ、キリスト教の日本伝来と繁栄、弾圧とカクレキリシタンの誕生といった、キリスト教の日本での歴史的展開を近代初期まで解説する。 西アジアとヨーロッパにおけるキリスト教の成立と発展をふまえて、キリスト教の日本伝来と繁栄、弾圧とカクレキリシタンの誕生といった、キリスト教の日本での歴史的展開を近代初期まで理解し、おおよそ説明できるようになる。
		キリスト教学Ⅳ	キリスト教の基礎知識を復習しながら、学生が生きるうえで出会う身近な諸問題を考察の対象にしつつ、それらの問題に対してキリスト教が示す見方・考え方を深めることによって、生きる力を体得できるようになる。授業を理解するためのキーワードは「キリスト教倫理」と「責任的自我」である。 本講義は「建学の精神」の学びの締めくくりである。学生はこれまで習得してきたキリスト教の基礎知識に基づいてキリスト教的人生観・世界観・価値観などを具体的な生活や生き方の射程において深めることによって、今後、学生が直面する様々な諸問題の分析と解決ができるようになる。

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	教養セミナー	<p>学部・学科枠を超えたクラス編成(1クラス約 20 名)とし、他の学部・学科生との協働作業(課題の相互チェック、ディスカッション、プレゼンテーションに対する質疑応答等)を通じた対話型授業とする。新聞記事に基づくワークシート学習に取り組み、継続的に時事問題を取りあげる。併せて、図書館の積極的・自主的活用を図る。</p> <p>(1)知識の習得 大学生活を身体的・精神的に安全に送るための知識、さらに社会へ目を向けていくための知識を習得する。</p> <p>(2)スタディ・スキルの習得 書誌情報の記録方法、レポート・論文の書き方、レジュメの作成方法、プレゼンテーション・スキル等、大学4年間の学びに必要とされる基本的なスタディ・スキルズを身に付ける。</p> <p>(3)批判的視点の育成 新聞記事を中心に、図書・インターネット等を活用し、批判的な視点で思考することができる。</p> <p>(4)他者理解 自分と異なる専攻分野を学んでいる人の考えや価値観を知り、それを理解できる。</p>	共同
	キャリアデザインセミナー	<p>学部・学科枠を超えたクラス編成(1クラス約 20 名)とし、他の学部・学科生との協働作業を通じた対話型授業とする。前半は自己分析や他者理解を中心としたワークに取り組み、後半は PBL:Project Based Learning を通じてチームで動くとはどういうことかを考えながら、自身のキャリアデザインの基礎を築き上げていく。</p> <p>(1) コミュニケーション能力 ・ディスカッションで自身の意見を主張できる ・相手に気持ちよく話してもらい傾聴ができる ・聴衆に対して効果的なプレゼンテーションができる。</p> <p>(2) 他者理解力 ・自己分析から他者との違いを理解できる ・意見の違いを受け入れることができる ・チームへ貢献する行動をとることができる。</p> <p>(3) 課題発見力と論理構成力 ・情報を比較することにより課題を発見できる ・原因 と解決策を因果関係がわかるように説明できる。</p>	共同
	情報処理基礎	<p>大学生活やデータ駆動型・AI 社会生活を送る上で、必要となるコンピュータに関わる基礎的知識・技能を身につける授業である。具体的には、本学情報システムの活用法、電子メールの活用法、文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの活用法について講義と実習を交えて学習する。また、データ駆動型・AI 社会で生活するために必須となる情報セキュリティやデータサイエンスに関わる知識は、事例を用いて講義・学生同士のディスカッションを通じて学習を深化する。</p> <p>本授業では、①本学情報処理設備とメールシステムの使用方法を理解し、学生生活全般に利用できるようにすること、②データ駆動型・AI 社会を安心・安全に生活していくための情報セキュリティに関する基礎的内容を身につけること、③データ駆動型・AI 社会を牽引するデータサイエンスを学ぶ意義を理解するとともに、その基本ツールとなる文書作成・表計算・データベース・プレゼンテーションのオフィス系ソフトウェアを活用できるようにすることの3つを到達目標とする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	データサイエンス入門	<p>あらゆる組織活動の場面で、近年、「根拠に基づいた意思決定」の重要性が叫ばれている。この「根拠に基づいた意思決定」を支える技術的基盤として、データサイエンスや人工知能(AI)の基本原則を理解し、上手に活用できるためのデータサイエンス・AIリテラシーを身につけることが大切である。</p> <p>本講義では、社会で応用されているデータサイエンスやAI活用の実例を示しながら、データサイエンス(=データを集め、整理し、分析し、発表する)の基礎的素養を身につけるとともに、データサイエンスやAIを活用するときのセキュリティ対策や倫理的課題を学修する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>(1) データサイエンスに関する基本的概念の理解  (2) 日常生活に活用できる基礎的なデータ分析技術の理解  (3) 人工知能に関する基本的概念の理解  (4) データサイエンス・AI技術を活用するためのセキュリティ対策や倫理的課題の理解</p>	
	健康・スポーツ実技Ⅰ	<p>アルティメット、バスケットボール、ピロポロ、フットサルの4種目(ゴール型種目)を実施する。授業の各回で習得してもらいたい技術やスキルなどをテーマとして掲げ、技術練習とゲームを実施する。単に身体を動かすだけでなく、基本的な技術の習得やスキル向上、チームメイトとの教え合いやディスカッションを通して運動・スポーツに対する態度の再創造を目指す。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>(1) 自身の体力レベルの現状を把握し、適切な対策ができる。  (2) 各種目を楽しむ上で必要な基本的な技術を習得する。  (3) スキル向上を目的とした活動を通じ、他者と協働して試行錯誤ができる</p>	
	健康・スポーツ実技Ⅱ	<p>本授業は、主に「ソフトバレーボール」、「バドミントン」、「卓球」の3種目に加え、1年時に実施したゴール型の種目を1回ずつ行う。ネット型の種目においては、基本技術とルールの解説をし、部分練習の上、ゲームを行う。</p> <p>各種目とも、技術習得のために、ディスカッションや教え合いをすることで、他者と協働しスポーツに親しむ資質・態度を培う。また、審判を行うことで、ルールの理解、遵守、公平性について考えることができる授業内容とする。</p> <p>各種目において、ゲームを実施するための技術の習得ができる。また、審判としてルールを理解し円滑にゲームを進めることができる。健康的な身体づくりだけでなく、スキル向上のために他者と協働することや、ルールを遵守し他者を尊重することで、コミュニケーション能力や公平性、スポーツに親しむ態度を培う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	英語Ⅰ	英語の4技能の向上をめざす。特に、クラス内でのペアワークやグループワークを通して、生活の様々な場面で使う・使える定型表現や語彙を実際に声に出して練習することにより、日常生活レベルのコミュニケーションをスムーズに行えるようにすることを目的とする。授業では、毎回設定されているトピックにもとづいて、新たに学んだ語彙や表現をできるだけ自分で(パートナーやグループ相手に)使ってみるためのアクティビティを中心に授業を進めてゆく。また、各 Unit 終了ごとに、理解度の自己評価のため、学習した語彙や文法に関する復習クイズをおこなう。	共同
	英語Ⅱ	英語の4技能の向上をめざす。特に、クラス内でのペアワークやグループワークを通して、生活の様々な場面で使う・使える定型表現や語彙を実際に声に出して練習することにより、日常生活レベルのコミュニケーションをスムーズに行えるようにすることを目的とする。授業では、毎回設定されているトピックにもとづいて、新たに学んだ語彙や表現をできるだけ自分で(パートナーやグループ相手に)使ってみるためのアクティビティを中心に授業を進めてゆく。また、各 Unit 終了ごとに、理解度の自己評価のため、学習した語彙や文法に関する復習クイズをおこなう。	共同
	英語Ⅲ	本授業を通して学生は、 1. 様々なトピック・文体の英文を、正確に読みこなすための効果的なリーディング・スキルを身につけることができる、 2. 英語の語彙を増やし、実生活に関わるレベルから学問領域に至るまで、受信と発信両側面に関わる英語力を総合的に向上させることができる。 授業は予習を前提として進められ、ペア・ワークで行う読解問題、グループ・ディスカッション、質疑応答を通して学習内容の定着を図る。	共同
	英語Ⅳ	本授業を通して学生は、 1. 様々なトピック・文体の英文を、正確に読みこなすための効果的なリーディング・スキルを身につけることができる、 2. 英語の語彙を増やし、実生活に関わるレベルから学問領域に至るまで、受信と発信両側面に関わる英語力を総合的に向上させることができる。 授業は予習を前提として進められ、ペア・ワークで行う読解問題、グループ・ディスカッション、質疑応答を通して学習内容の定着を図る。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	文	日本の文化	<p>陰陽道の歴史的展開を全時代を通して概観する。受講生には、時代ごとに変化を続けるその姿にも注目するよう働きかける。なお受講生の状況を見て、授業計画を一部変更する場合がある。</p> <p>陰陽道は、過去の日本の政治や文化に重要な役割を果たした。また陰陽師安倍晴明の名は、芝居や映画になるほど有名である。だが彼らの実像は意外に知られておらず、ある意味では誤ったイメージが一人歩きしている。そこでこの講義では、陰陽道や陰陽師の歴史をテーマとすることで、受講生がこれを正しく理解し、基本的な説明ができるようになることを目的とする。一番大事なことは、この授業での勉強を通して、陰陽道のような文化現象を理解する感覚を身につけることなので、そう心がけて貰えるよう注意喚起をする。</p>	
		西洋の文化	<p>ハムレットの台詞に、演劇とは「自然に対して掲げられた鏡」だとあるように、演劇はそれが生み出された社会を反映する芸術形態である。古代ギリシャから20世紀までの西洋の代表的戯曲作品について学ぶことにより、それぞれの作品が書かれた時代の文化や思潮について説明できるようになる。授業では、(1)ソポクレスからミラーの戯曲まで、それぞれの時代背景に言及しながら紹介してゆく。(2)戯曲の邦訳からの抜粋の「プレイ・リーディング」と、映像資料を通して作品理解を深める。</p>	
		長崎の文化	<p>史料「長崎歳時記」をもとに、いわゆる鎖国時代に行われていた年中行事がどのように伝来・発祥し、変化を遂げていったのか、また今日の行事にどのように引き継がれているのか、例えば「くんち」「精霊流し」「ペーロン」「はたあげ」など個別の行事を掘り下げてその特徴を解明していく。また、行事以外の衣食住に関わる独自の文化がどのように発展していったのか、「和・華・蘭」と総称される長崎の文化の個性はどのようなものか、身の回りの事象を掘り下げて解明していく。特に長崎のもつ独特な歴史的背景と文化との関わりが街の魅力につながっていることを注視する。</p>	
		演奏の楽しみ	<p>この授業では、鍵盤楽器(23 龍田担当/8 回)、フルート(10 草場担当/7 回)の基本的な演奏法を講義と実習の授業を通して習得し、器楽演奏から生まれる喜びを得て、一般教養としての音楽の理解を深めることを目的とする。各回の授業で、基本的な器楽奏法を学ぶほか、各楽器における重要作品の鑑賞、簡単な楽曲分析等も行う。鍵盤楽器の回で扱う楽器はピアノ・パイプオルガン・チェンバロを中心とし、その他の鍵盤楽器についても授業内容で触れる。フルートの回では通常管のほか、アルトフルートやバスフルートも試みる。授業内で定期的に、互いの演奏を聴きあう発表の場を設け、演奏および鑑賞の実践を行う。履修者は音楽経験者・初心者問わないが、音楽学習に対して向上意欲のある学生が望ましい。</p>	オムニバス形式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	文 化	音楽の世界	<p>芸術療法の中でも特に音楽療法について、その概要と実際を知り、療法として音楽がどのように使用されているかを学ぶ。音楽について、脳、感情、記憶などとの関係性を概観し、学びを深める。</p> <p>芸術は誰もが生活の中で体験し、影響を受けていると思われるが、それだけではなく、医療、福祉、教育などのあらゆる分野で活用されている。本講義では、芸術療法の中でも音楽について取り上げる。心理学や脳科学など様々な領域からみた音楽、そして音楽療法について、その概要を知ること目標とする。</p>	
		ジェンダーからみる社会	<p>社会と家庭におけるジェンダーにかかる問題を知り、自分の今後のキャリアのあり方と、社会における問題の解決の方策を検討する。今まで、そこから不利益を受けてきたという認識がない人も多いかもしれないが、社会の中にはそれによって様々な困難が発生していることについて、具体的事例から考え、グループ・ディスカッションを通じてともにその解決法について考えていく。</p> <p>(1) 日本社会におけるジェンダーにかかる問題について説明できる。</p> <p>(2) ジェンダーにかかる問題を自らの問題として理解できる。</p> <p>(3) ジェンダーにかかる問題を解決するための方策について考えることができる。</p>	
	社 会	日本国憲法	<p>日本の最高法規である日本国憲法について概説する。憲法の概要を理解した上で、特に憲法をめぐっては其の改正論、日本の安全保障と憲法 9 条との関係が社会問題となっている中で、それらの意見対立についてそれぞれの見解を学んで自分なりの考えをまとめることができるようにすることを目的とする。また到達目標としては、</p> <p>(1) なぜ、私たちの社会に「憲法」が存在するか、「立憲主義」の意義について説明できる。</p> <p>(2) 現実に生起している憲法問題を発見する。</p> <p>(3) 憲法「改正」問題について、自分なりの考えを発信できる。</p> <p>以上を目標とする。</p>	
		異文化理解演習	<p>この科目は、異文化理解を目的とする学外の研修に参加し、自分でテーマを設定し、そのテーマに沿って異文化の特徴や人々の価値観などに関する理解を深める。対象となる研修は、活水女子大学が協定を結んでいる大学が提供するプログラム、または、活水女子大学を通して申し込む短期の海外研修や国内異文化研修、またはオンラインコースである。異文化の人々と接することを通して異文化を理解し、同時に自文化の特性を客観的に分析できるようになることを目指すものである。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	社会	現代社会と教育	<p>「教育」は、誰もが経験している。それゆえ、教育観や現代社会における教育の課題について述べる際には、個人や身の回りの経験のみが根拠になりやすい。そのようなことにならないためには、教育に関する情報を適切に解釈することが重要である。</p> <p>本講義では、教育に関する様々な調査や文部科学省が提供する情報などを根拠として、現代社会における教育の動向を学修する。また、確かな情報をもとに、現代社会における教育の課題を説明できる力の習得を目指す。そのため、教育に関する調査結果(グラフや表)の読み取り方や、教育に関する情報の収集方法についても学修する。また、講義の後半では、教育に関するデータをExcelを使って分析する活動や、教育に関する記事を批評する活動に取り組む。</p> <p>&lt;テーマ&gt;現代社会における教育の動向と課題 &lt;到達目標&gt;</p> <p>(1) 教育に関する調査結果(グラフや表)を、適切に解釈できる。</p> <p>(2) 適切にデータを処理して、現代社会における教育の動向を説明できる。</p> <p>(3) 現代社会における教育の課題を、確かな情報をもとに説明できる。</p> <p>(4) 教育に関する記事を、批評できる。</p>	
		現代社会と経済	<p>授業で取り扱うのは経済学、経営学、商学のエッセンスである。経済学はマネーだけを扱うのではなく、社会のあらゆる動きをとらえて課題を発見し分析することに意義がある。そしてその目的はわたしたち一人ひとりが豊かに暮らすことができることを考える学問である。現代社会に横たわる諸問題に関して、自分たちがどのように思考し対応すればよいか、理解を深め主体的に行動するための基盤を醸成することを目指す。</p> <p>社会のさまざまな時事問題や社会経済の事象をとりあげ、それらが自分自身にとってどのような意味があるのか、またどのような関与や貢献ができるのかを能動的に説明できるようになる。</p>	
	生活	心理学	<p>本講義では、現代社会に内包された様々な問題や現象について、心理学的知見をもとに学ぶ。</p> <p>社会的問題に焦点を当てるものの、それは必ずしも臨床的な知見だけではなく、人間の知覚や認知、感情や学習といった多くの心理学領域から論じていくものとし、心理学の定義や歴史にも本講義では触れ、理解してもらおう。それらを踏まえた上で設定された目的は以下の3点となる。</p> <p>(1) 行動科学の観点から人の心を捉えることができる。</p> <p>(2) 日本社会が持っている規範や価値観に関する特徴を理解する。</p> <p>(3) 日本社会の特徴を踏まえながら、人の心や行動のメカニズムを理解する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	生活	生活と科学	<p>生活の中で起こる自然現象や社会現象は様々な視点から説明することができる。本科目では生活の中で起こる様々な現象を科学の視点で捉え、そのメカニズムや仕組みを学習することによって自然科学への興味を喚起すると共に自然科学に関する知識や理解を深め、自身の生活や専門分野の学びに活かすことを目的とする。</p> <p>(1)到達目標 身のまわりで起こる現象を科学の視点で説明することができる。</p> <p>(2)授業形態 受講生の高校での履修状況は様々なので、受講にあたっては自然科学に関する知識や理解度は重要視しない。まずは自然科学に興味をもつことが重要であるため、科学に抵抗がある受講生でも容易にイメージできるように授業を行う。</p>	
		食べ物と栄養	<p>下記の授業計画に従い、健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能等について学び、食べ物や栄養と健康とのかかわり、望ましい食生活のあり方を学ぶ。「食べ物」「栄養」「健康」「食生活」</p> <p>食べ物と栄養に関して客観性のある科学的知識を身に付け、健康的な食生活を実践するための基本的考え方や方法を理解できるようになることを目標とする。「知識・理解の観点」から、</p> <p>(1)栄養素のはたらきや、食品の種類と栄養素について説明できる。</p> <p>(2)栄養と健康とのかかわりを説明できる。</p> <p>(3)望ましい食生活のあり方を説明できる。</p>	
		健康・スポーツ論	<p>前半では健康や運動・スポーツの意義や効果などに関する基礎知識について取り上げ、後半ではトレーニング理論や運動の継続化など運動・スポーツを実践するための方法について取り上げる。また、メディア等で取り上げられた健康、運動、スポーツに関するトピックについて紹介しながら身近な課題として考えることができる授業内容とする。</p> <p>(1)「健康」「運動」「スポーツ」とはなにかを説明できる</p> <p>(2)健康に対する運動・スポーツの役割を説明できる</p> <p>(3)自身の生活を振り返り、健康な生活を送るための工夫を発案・表現できる</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	教養 テーマ 別 科目	SPI非言語分野対策 演習	<p>イントラネット環境上のビデオ教材を用いる。教材は、①例題(ビデオ教材内の講師の解説を聞きながら解法を学ぶ)②演習(各自で問題を解く)③演習の解答・解説(講師による解法を聴いて正誤をチェックする)の3部構成、合計90分で構成されている。ただし、インターネットに接続された学内PCであればいつでもどこでもアクセスできるので、受講の方法として授業時間前にあらかじめ学習を終えておき、授業時間中には解答を間違えた問題、解説を聞いても理解できなかった問題等を重点的に(再度)解く。あるいは科目担当者に質問するといったいわゆる反転授業にも対応する。</p> <p>また毎回教科書とは別の教材からのエクストラ問題を準備するので、早く終わった場合はそのエクストラ問題に取り組むこととする。</p> <p>SPIの非言語分野問題の苦手領域を発見・克服することによって、実際のSPI受験時に所定時間内に全問解答した上で正答率を上げることを目標及びテーマとする。具体的には、</p> <p>(1)文章題のパターンに慣れ、(図や表を含む)設問を見た瞬間に問題のジャンルを判別できる。</p> <p>(2)そのうえでその問題の解法や公式に瞬時にアクセスできる。</p> <p>(3)解法や公式がわかっても計算ミスがあつては意味がない。分数、小数点、負の数等を含む四則計算を100%の確率で計算できる。以上を到達目標とする。</p>	
		キャリア形成講座	<p>将来の仕事に関する希望を実現するために現状の把握を行い、足りない能力を確認して、その強化をはかる。職業能力の形成について理解を深め、将来への道筋をつける。</p> <p>将来の目標や夢の実現にむけて、自分自身の理解を深めながら、具体的な行動について理解するのがこの講座の目的である。この講座を受講することによって、自分にとって働くとは明確にし、就職活動の流れを把握し、3年次末から始まる就職活動に役立てることができる。また、将来のキャリア形成に向けて着実に行動することができる。</p>	
		TOEIC 対策講座	<p>TOEICを初めて受験する人、及び受験経験はあるがまだスコアが低い人(例えばReading Section 200点未満)がスコアアップを目指すためのTOEIC入門講座。各パートの出題傾向とスコアアップのための解法の「コツ」を踏まえたうえで、トータルで半分以上を正答できるだけのリスニング力、語彙力、基本的な文法・語法理解力、及び読解力を身につけることを目標とする。</p> <p>具体的には、</p> <p>(1)TOEIC L&amp;Rの問題構成を説明できる。</p> <p>(2)各パートの設問パターンと解法を説明できる。</p> <p>(3)リーディングセクション解答のための時間管理ができて、時間内に全問余裕を持って解答できる。</p> <p>(4)上記(3)を実現するための語彙、語法、文法、読解の基礎的な知識を問題に応用できる。</p> <p>(5)上記(4)にもとづいて「言い換え」表現に気づくことができる。</p> <p>以上を到達目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	キャリア	<p>この科目はインターンシップ受け入れ先とマッチングした学生が対象となる。事前指導・事後指導は、各テーマに沿って進める。事前指導では基本的なビジネスマナーや仕事の基本を身に付ける。事後指導では体験報告や設定したテーマに沿ってグループワークを実施し、経験の意味づけを行う。なお、学外でのインターンシップ事前セミナーへの参加も必要となる。就業体験は、企業等の協力を得て、夏期休暇中に原則2週間実施する。事前指導・事後指導の日程については、学科隔年が様々であるため、別途連絡する。なお、指定された日程に出席しなければならない。</p> <p>この科目の目的は、企業等で就業体験を行うことにより、職業意識を高め、必要な能力をを認識し、「働くとは何か」を考えていくことである。</p> <p>具体的には、この科目を通じて仕事にとり組む真摯な態度を身に付けることができる。</p> <p>また、受け入れ先企業の研究を通じて、会社概要や事業内容、仕事の流れを認識することができる。</p> <p>これらの取り組みが就業活動に対する動機付けとなり、今後働いていくための心構えを身に付けることができる。</p>	
	特別講義	<p>現代社会においては、既存の学問概念では捉えることができない新たな問題が日々生起している。この授業では、社会的ニーズや、学生からの要望等を踏まえ、様々なテーマを設定し、学生が時代に合わせた確かな教養を身に付けることを目標とする。よって、授業内容はテーマによって異なり、担当教員も授業内容によって適切な教員を起用することとなる。このことにより、学生は既存のテーマの枠にとらわれない、学際的・先進的な学びを行うことが可能となる。授業形式は講義形式が中心となる。</p>	
	特別演習	<p>現代社会においては、既存の学問概念では捉えることができない新たな問題が日々生起している。この授業では、社会的ニーズや、学生からの要望等を踏まえ、様々なテーマを設定し、学生が実践的に、時代に合わせた確かな教養を身に付けることを目標とする。よって、授業内容はテーマによって異なり、担当教員も授業内容によって適切な教員を起用することとなる。このことにより、学生は既存のテーマの枠にとらわれない、学際的・先進的な学びを行うことが可能となる。授業形式は演習形式が中心となる。</p>	

様式第2号（その3の1）

授 業 科 目 の 概 要			
(国際文化学部国際文化学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース共通科目）	国際文化入門	<p>海外の文化と日本の文化について理解する。</p> <p>具体的には、芸術、音楽、政治や宗教、歴史、民族、伝統的な価値観、ライフスタイル、スポーツ、祝日、食べ物、ポップカルチャーなどの特色を理解し、海外と日本の共通点、相違点やその背景を考察する。関連するニュース映像や映画の一部を視聴することによって理解を深める。受講生は、それぞれのトピックについて意見の発言を求められる。また、興味をもったトピックについて調べ、発表する。</p> <p>(オムニバス方式全15回)</p> <p>(9 吉田峰明/2 回)国際文化概論、アジア圏文化概論、(1 上野葉子/3 回)英語圏文化概論[北米・オセアニア]、(11 香川実成/3 回)英語圏文化概論[ヨーロッパ・アフリカ]、(5 細井浩志/3 回)日本文化概論、(24 中村仁/3 回)ヨーロッパ圏文化概論[英語圏以外]、(22 花堂奈緒子/1 回)文化と経済</p>	オムニバス形式
	基礎科目	異文化コミュニケーション論	<p>異文化コミュニケーションに関わる様々な要素を考察し、なぜミスコミュニケーションが起こるのかを客観的に分析する力をつけていく。講義の中に、異文化トレーニングを入れ、自分の行動パターンや思考パターンや価値観が多くのバリエーションのうちの一つにすぎないことを認識していく。</p> <p>この授業を通して、他文化の人とコミュニケーションを円滑に進めるために必要となる知識や、文化の特徴を分析するための様々な理論を理解し異文化を理解する手立てを用いて文化の特徴について説明できるようになる。異文化コミュニケーションで最も大切な要素となる、自文化を含めた自分の行動・思考パターンを客観視することができるようになり人に説明できるようになる。様々な異文化衝突の事例研究を通して自分の考えを他と共有し合い、物事の捉え方や価値観、習慣などにおける多様性を理解し、その解釈において多様な可能性を表現できるようになる。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース共通科目）	女性リーダーシップ論	<p>この授業では、リーダーシップ研究の多様なアプローチを紹介し、リーダーシップの基本的な知識を学ぶ。また、組織におけるリーダーとフォロワーの関係性や集団パフォーマンスとの関連について、講義・演習を通じて考える。さらに、自身のリーダーシップを開発するために、フィールドワークを通じて地域課題を把握・分析し、解決策を立案する機会を得る。このようにして、社会でリーダーシップを発揮するための考え方、方法論を実践的に学んでいく。</p> <p>学修到達目標は、(1)リーダーシップ研究の歴史とその変遷について学び、基本的なリーダーシップ理論を説明できるようになる。(2)リーダーシップ理論を実践応用する力を身につけ、グループワークに活かすことができる。(3)社会における将来のリーダーとして、どのように自分を育成していくかについて行動目標を立てることができる。</p>	
	基礎セミナーⅠ	<p>本セミナーの目的は、大学の勉学で最も大切な「自ら問題を見つけ、それを整理して、自分なりに考えて答えを導き出す能力」を身につけることであり、そのために行わなければならない知的生産技術(アカデミック・スキルズ)の基本、「調べる・まとめる・発表する」という一連の作業ができるようになることが目標である。目標を達成するため、本セミナーは自ら学ぶ、アクティブラーニングを基本とし、ワークショップ形式で授業を進める。前半は、テキストに沿ってアカデミック・スキルズとは何かを概観し、ノートテイキング、データベースの使い方、クリティカルリーディング手法、情報整理術、研究成果発表法を学んだ後、課題を与えられて、グループで実際に研究を行い、最後に研究発表とレポート提出を経て評価を受ける。</p>	共同
	基礎セミナーⅡ	<p>本セミナーの目的は、大学の勉学で最も大切な「自ら問題を見つけ、それを整理して、自分なりに考えて答えを導き出す能力」を身につけることであり、基礎セミナーⅠで身につけた知的生産技術(アカデミック・スキルズ)の基本、「調べる・まとめる・発表する」という一連のスキルをさらに向上させることが目標である。また、2年次以降に履修する「キャリアデザイン実習Ⅰ」(インターンシップ)や将来社会で必要とされるコミュニケーション力やプレゼンテーション力を高めることも目標としている。上記の目標を達成するため、本セミナーは自ら学ぶ、アクティブラーニングを基本とし、ワークショップ形式で授業を進める。基礎セミナーⅠで学んだ、ノートテイキング、データベースの使い方、クリティカルリーディング手法、情報整理術を用いて、与えられた課題に対してテーマを設定し、グループで実際に研究を行い、最後に研究発表とレポート提出を経て評価を受ける。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース共通科目）	基礎セミナーⅢ	<p>本セミナーの目的は、基礎セミナーⅡまでに学修した基本的な技能が身についているかを確認し、それらをより確かなものにする事である。様々な物事の背景にある社会的・文化的・歴史的状況等を、客観的かつ専門的な解釈をもって分析・考察するためには、あらゆる分野の文献を読み多くの事象に実際触れ、知見を増やすことが重要である。物事を注意深く観察する能力や批判的思考、コミュニケーションスキルを磨くためにも、クラス内での文献精読、ディスカッション、プレゼンテーション(発表)を行う。</p> <p>学修到達目標は、(1)自ら課題を発見し、その問題の背景にある社会的・文化的・歴史的状況等を分析・考察することができる。(2)問題を解決するための自分の意見を、論理立てて説得力ある文章にすることができる。(3)自分で調査・考察した内容を、プレゼンテーション能力および資料を用いて簡潔に説明し、他者と議論することができる。</p>	共同
	基礎セミナーⅣ	<p>本セミナーの目的は、基礎セミナーⅢまでの学修が身についているかを確認し、3年次以降の専門的な学びに入る前に、それらをより確かなものにする事である。様々な物事の背景にある社会的・文化的・歴史的状況等を、客観的かつ専門的な解釈をもって分析・考察するために、多様な分野の文献を読み多くの事象に実際触れ、知見を増やす。また、クラス内での文献精読、ディスカッション、発表だけでなく、学外における調査活動も行う。さらに、インターンシップや就職活動への準備として、「業界・企業研究」を行い、「ビジネスマナー」の基礎を身につける。学修到達目標は、(1)自ら課題を発見し、その問題の背景にある社会的・文化的・歴史的状況等を分析・考察することができる。(2)自分で調査・考察した内容を、プレゼンテーション能力および資料を用いて簡潔に説明し、他者と議論することができる。(3)インターンシップや就職活動で必要とされるビジネスマナーの基礎を身に付け、コミュニケーション力を高めることができる。</p>	共同
	卒業研究	<p>課題発見力、論理的思考力、構想力、表現力など、国際文化学科の教育課程で身につけた能力を総合的に用い、国際文化学科で学んだことを集大成して、卒業論文を作成する。担当教員の指導を受けながら、国際文化に関わる各分野の専門性をベースにして、自己の関心が深いテーマについて、過去の研究の達成を確認し、論点を認識し、考察を行うことで、困難な問題を解決する力を身につけることができる。</p>	共同
外国語科目	中国語Ⅰ	<p>授業に使われるテキストは面白く興味を引く内容で、日本人と韓国人の二人の留学生の会話で構成されており、その留學生活の足跡を追うことによって、一歩ずつ中国語の世界と中国の社会へと入って行けるようになっていく。</p> <p>受講生は中国語の発音をしっかりと習得し、初歩的な中国語文法を学び、「聞く」、「話す」、「書く」、「読む」、「暗唱」などの練習を通じて、簡単な中国語会話ができるようになる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 (外国語科目共通科目)	中国語Ⅱ	<p>授業に使われるテキストは面白く興味を引く内容で、日本人と韓国人の二人の留学生の会話で構成されており、その留学生活の足跡を追うことによって、一歩ずつ中国語の世界と中国の社会へと入って行けるようになっている。</p> <p>受講生は中国語の発音をしっかりと習得し、初歩的な中国語文法を学び、「聞く」、「話す」、「書く」、「読む」、「暗唱」などの練習を通じて、簡単な中国語会話ができるようになる。</p>	
	中国語Ⅲ	<p>入門初級で学んだ単語や文法、句型を復習しながら、新しい知識を学び、青春、友情、旅などをテーマにし、登場人物を通じて、会話が展開されていく。学習者自身がその主人公になって、旅にでたり、友達をつくったり、熱く夢を語り合ったりして、楽しんでいううちに中国語を覚えていく。</p> <p>受講生は入門段階で学んだ基礎内容を復習しながら、より多くの文法事項、実用的な会話文を学び、さらに一歩上のレベルに進み、言葉の学習を通じて、現代中国の事情を知り、中国文化に触れることができる。</p>	
	中国語Ⅳ	<p>入門初級で学んだ単語や文法、句型を復習しながら、新しい知識を学び、青春、友情、旅などをテーマにし、登場人物を通じて、会話が展開されていく。学習者自身がその主人公になって、旅にでたり、友達をつくったり、熱く夢を語り合ったりして、楽しんでいううちに中国語を覚えていく。</p> <p>受講生は入門段階で学んだ基礎内容を復習しながら、より多くの文法事項、実用的な会話文を学び、さらに一歩上のレベルに進み、言葉の学習を通じて、現代中国の事情を知り、中国文化にふれることができる。</p>	
	韓国語Ⅰ	<p>韓国語を初めて学習する人を対象に、韓国語の文字(ハングル)の読み方、書き方から始める。韓国語は日本語と語順が同じであるゆえに、漢字からなる単語の多くが共通しているため、日本人にとって習いやすい言語である。本授業では韓国の文化、歴史、伝統やマナーなどにも触れながら文法の基礎を学ぶ。また、実際の場面を想定した会話練習、韓国の音楽を聴くなど、リスニング能力も高める。また、学期末までに数回の自己紹介発表の機会を設ける。※時間の関係と到達度によって毎週の進捗計画を変更する場合もある。</p> <p>(1)韓国語固有の文字であるハングルの読み書きができるようになる。</p> <p>(2)韓国語で挨拶や自己紹介ができるようになる。</p> <p>(3)韓国に対する関心、興味、理解が増すことになる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 (コース共通科目)	韓国語Ⅱ	<p>本授業では、韓国語Ⅰで学んだ内容に基づき、文法項目に沿ってさらに発展させ、学習した文型で短文づくりや買い物でのやりとりなど、具体的な生活面を事例にしながら、一般的な会話について学ぶ。受講者には、毎回会話文を読んでもらい、発音をただしていく。なお、授業では理解を定着させるために、毎回簡単な単語テスト(5分程度)を行う。また、前期に引き続き、随時、韓国の社会や文化についても紹介する。*進度は受講生の理解度をみなから前後する場合がある。</p> <p>(1) ハングル文字を正確に発音し書けるようになる。  (2) 挨拶や自己紹介、買い物など基本的な会話ができるようになる。  (3) 言葉と関連して、韓国の社会・文化などについても理解する。</p>	
	韓国語Ⅲ	<p>韓国語Ⅰa,bを履修した方のみ受講可能。  週に一回の授業なので予習&amp;復習を徹底的に行うこと。テキスト以外にも参考資料を配布致するので多様な表現が身につくよう指導する。また、韓国文化と韓国事情についても紹介する。場合によってはシラバス変更がある。韓国語で自己紹介が出来、簡単な日常会話ができるようになることを目標とする。</p>	
	韓国語Ⅳ	<p>韓国語Ⅱaを履修した方のみ受講可能。  授業では積極的に韓国語で会話ができるようにすること。特に、役割劇の会話には力を入れて行うこと。  この授業では、読み・書き・聞き・話すことの4つの機能に重点をおいているので万が一ハングルが読めない(苦手な)方は再び復習を行う。*場合によってはシラバス変更があります。  韓国語で日常生活に関わる表現を話せるようになることを目標としTOPIK2級(韓国語能力検定試験2級)を目指す。</p>	
国際文化系	多文化共生論	<p>多様な住民で構成される地域社会において、地球に住むすべての人が同じ生活者であるという視点から、メディアのステレオタイプな情報に惑わされることなく、ま文献のみに頼らず、社会問題を公正に考察する力をつける。多文化共生社会の実現にむけた身近な実践例や映像などを通して、無知からおこる偏見に気づき、社会問題に関わることの意義を実感する。文化の多様性は社会を活性化させるためのエネルギー源である。逆に文化的に画一化した社会は外部からの衝撃に脆く弱い傾向にある。多様性のある社会とは何か、多様な人々が共生するにはどのようなことが求められるのか、文化・民族・宗教が混在する海外の事例についても言及する。</p>	
	文化と社会	<p>文化を研究するとは？ 文化という言葉には大別して二つの意味がある。優れているとされる芸術や学問等、次にある集団に共通する行動様式、またはその背後にある価値観である。この二つの意味をつなぐ接点になりうるものとして、文化とは人間が自然環境に適応するために作り上げたものとする考え方があ。ここでは主として2と可能であれば3番目の文化についての講義を参考に、受講者が自らテーマを見出し研究した成果を発表する形で行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 (国際文化系 共通科目)	文化人類学	<p>文化について広く世界各地の事例を参照し、世界各地には多様な生活、さまざまな文化が存在し、人々はそれぞれの社会の生活様式・価値観のもとに暮らしている。講義では多様な文化を持つ人々が触れ合う社会の事例を取り上げ、異文化を理解することの意味を考える。また、文化人類学の視点・方法を学ぶことにより、人間が作り上げた文化の個別的側面と普遍的側面とを理解し、個別文化の価値を認識する力を養う。同時に、生活様式の違い、価値観の違いから起こる諸問題を捉え、解決へ導く基礎的な視点・考察力を身につけることを目標とする。世界には様々な文化が存在するが、グローバル化によって異文化と接触する機会が増えている。</p> <p>(1)異なる文化のもつ理論に基づいて異文化を理解すること            (2)異文化への寛容性を持つ必要性、            (3)異文化及びその多様性を知ることの重要性、            (4)異文化社会(及びマイノリティ)が置かれている状況を理解する方法があること、            (5)グローバルとローカルの相克と、その対処について考える必要性について言及する。</p>	
	アジアの文化	<p>アジアは一般的にユーラシア大陸のうちヨーロッパを除く地域を指すが、国連の統計用地理区分では、東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア、中央アジアの5つのグループがアジアとされ、それぞれの地域に属する国が分類されている。</p> <p>アジアという概念は、もともとヨーロッパから異質の他者に向けたまなざしが投影されて成立した。そのためアジアの地理的・文化的範囲に、厳密な定義は存在せず、文化も多様性に富んでいる。ここでは5つのグループに属するアジアからいくつかの国を選択し、その文化について学修する。</p>	
	グローバルスタディーズ	<p>世界の全体像を見るための視点をSDGs(持続可能な開発目標)に定め、人権・社会制度・社会インフラ・地球環境等の分野における国・地域・ブロック毎の現状や現在までの取り組み状況を把握・分析した上で、2030年までの目標達成に向けてどのような課題があるのか、課題解決の方法は何なのかを検討していく。</p> <p>授業は、科目担当者による資料(日本語と英語)の提示・紹介と、学生(グループ)による資料分析・まとめの発表をセットにして展開していく。</p>	
	Japanese Culture Studies I	<p>Students will read one unit of the textbook in each class and do various kinds of exercises. They will not only learn key concepts of Japanese culture but also learn how to express these concepts in English. Students will be asked to choose a topic and make a presentation about the topic in the classroom. (English only)</p> <p>毎週、教科書の1ユニットを読み、たくさんの練習問題をこなしてゆく。文化の様々な側面に触れ、日本文化のキーコンセプトを英語で説明できることを授業の目標とする。自分でトピックを一つ選び、それについて英語でプレゼンテーションをすることを課題とする。(英語のみ)</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 ( コ ー ス 共 通 科 目 )	Japanese Culture Studies II	<p>We will look at facets of contemporary Japan including Japanese social issues, politics, and Japan's role in international affairs through the English speaking media. (English Only)</p> <p>1. Students will improve their English reading, writing, listening, and speaking skills by looking at what is happening in Japan today through the lens of the English speaking media.</p> <p>2. Students will read, watch, listen, and speak about Japanese current affairs in English.</p> <p>英語メディアを通じて、日本が海外でどのように報じられているかについて考察する。社会問題、政治、国際関係など様々な視点から現代日本社会に焦点を当ててゆく。</p> <p>1. 英語メディアというレンズを通じて、今日の日本に何が起きているのかを理解する。</p> <p>2. 日本語の時事問題について取り扱っている英語メディアを題材にして、4技能の育成に務める。(英語のみ)</p>	
	英語圏の文化	<p>政治や宗教、民族の多様性、伝統的な価値観、ライフスタイル、スポーツ、祝祭日、食べ物、音楽、ポップカルチャーなど英語圏の地域の社会、文化について理解する。英語圏のそれぞれの地域の共通点、相違点についても考察する。</p> <p>英語のテキストを使うことにより、英語のリーディングスキルを向上させる。また、関連するニュース映像や映画の一部を視聴することによって理解を深める。</p> <p>履修者は、それぞれのトピックについて意見の発言を求められる。また、興味をもったトピックについて調べ、発表する。</p>	
	英米文学入門 I	<p>イギリスのルネサンス期からヴィクトリア朝時代、20世紀、現代までの演劇、小説、詩のジャンルにおける代表的な作家と作品について具体的に知るとともに、各作品が書かれた時代の社会・文化・思潮について理解する。また、複数の作品に見られるジェンダーの扱われ方に着目し、時代との関わりを考察する。</p> <p>文学作品の中で用いられている様々な文体や英語の語彙・表現について理解する。</p> <p>各作品の原作からの抜粋を読んで理解し、映像教材を通して作品理解を深める。</p>	
	英米文学入門 II	<p>アメリカ文学について書かれた英語のテキストを読み、時代ごとの文学の概略を学ぶ。文学に影響を与えた時代背景を知ると同時に、実際に主要な作品の一部を読み、その作品の特徴を学ぶ。アメリカ先住民の残したことばや、アメリカ探検記、自伝、独立宣言文などに始まり、小説や詩、戯曲、現代のポップソングの歌詞などを扱う。各作品の原作からの抜粋を読んで理解し、映像教材を通して作品理解を深める。</p> <p>作品について知るとともに、アメリカ文学の中でテーマとして取り上げられてきた「アメリカ人とは?」「アメリカン・スピリッツとは?」という問いについても考えを深め、アメリカ文化について考察する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 （ コ ー ス 共 通 科 目 ）	英米文学演習	<p>アメリカの代表的な詩作品を精読し、背景となっている文化、歴史、社会について理解する。また、英詩特有の韻律のパターン、脚韻、頭韻などの技法、さまざまな比喻の手法について理解する。</p> <p>同時に、作品に使用されている様々な英語表現について理解し、英語を読む力を養う。</p> <p>扱う詩人は、Anne Bradstreet, Emily Dickinson, Walt Whitman, Robert Frost, Ezra Pound, H. D., T. S. Eliot などである。</p> <p>上記の点について、中学校、高等学校の授業での活用法を学ぶ。</p> <p>授業は、学生の発表にもとづいて授業が進められる。</p>	
	Comparative Cultural Studies	<p>Students will study different aspects of the cultures of the United Kingdom, the United States and Japan and explore their similarities and differences. Each week's materials will be prepared by the teacher in order to present students with the most up-to-date information available. Students will also be tasked with researching a chosen aspect of these cultures in groups for presentation and report purposes. Students will also be encouraged to record their progress in learning about the different comparative aspects of the three cultures in their Language Portfolios. (English Only)</p> <p>この授業ではイギリス、アメリカ、日本の文化について学び、3つの文化の類似点や相違点について考察する。毎週、最新の資料が配布され、学生はクラスでの発表やレポート課題遂行のために、特定のトピックについてグループで調査・研究することが求められる。クラスでの学習がどの程度進んでいるか、ランゲージ・ポートフォリオに記録しておくことも勧めたい。</p> <p>言語を理解するのは、言語の基盤となる文化についても理解することが重要になってくる。このクラスではイギリスやアメリカの文化を日本のものと対比させながら、それらの違いが価値観や伝統、人々のアイデンティティとどのように結びついているのかについても考察してゆく。文化についての理解を深めることにより、英語コミュニケーションをより深いレベルで捉えることができるようになり、今日の社会で必要とされる国際観の育成に努める。 (英語のみ)</p>	
	英語とキャリア	<p>授業は、講義、演習、グループ発表、外部講師を招いての講演で構成される。毎回事前に出された課題に基づいて講義やグループディスカッションを行う。</p> <p>卒業後のキャリアを考える際に、英語を使った仕事にはどのようなものがあるのか、また、それぞれの仕事において求められる英語力とはどのようなものか理解し、それぞれの目標を設定することができるようになる。また、外部の講師の講演を聞き、社会で求められている力や知識、経験などを理解し、大学4年間の過ごし方を計画できるようにする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 (キャリア系 共通科目)	グローバル企業を知る	<p>海外メディアの英文記事を読み、世界的に有名なグローバル企業の取り組み、成功例、失敗例、直面する課題、今後の課題について自分で説明できるようになることを目標とする。</p> <p>テキストで紹介されている企業のホームページ、新聞や雑誌の記事を読み、最新の状況や取り組み、課題を調査する。また、取り上げられている企業や同業種の他の企業の取り組み、課題について調べ、発表する。グローバル企業の方の講演を聞き、グローバルビジネスに関わる点で必要なこと、グローバル企業としての取り組みについて聞く。</p>	
	English for Hospitality and Tourism	<p>観光英語を知識としてだけではなく実際に使えるものとして学ぶ。航空・テーマパーク・ホテルなどで使用される言葉や表現を使えるよう、実践的な練習を行う。適宜、各ユニットに関連する音読練習を実施しリスニング力、単語力の向上を図る。</p> <p>航空・テーマパーク・ホテル業界で用いられる基本的な英語の専門用語を学び、アクティビティーを通して使用練習を行い、就職活動や卒業後に仕事の現場で使う事ができる。</p>	
	国際コミュニケーション論	<p>日本と異文化圏の人々(ここでは特に英語圏の人々)との思考方法及び行動様式の相違を具体的に取り上げ、文化が言語化されていない「沈黙の言葉」として、それ自体コミュニケーション価値を担っていることを理解し、異文化を知ることは、自文化の本質を理解することに繋がることを確認していく。</p> <p>国際コミュニケーションにおける諸問題を軸に、文化を超えて円滑なコミュニケーションを実現していくことの意義、及び自文化と異文化の客観的相互理解の重要性について学ぶ。文化とは何か、コミュニケーションとは何か、をしっかりと認識し、文化の差を優劣視しない多文化共存の国際化、異文化相互理解、そして異文化が共生できる社会について考える。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 (コース 共通 科目)	語学ボランティア演習	<p>15回の授業は三部構成であり、それぞれプロジェクトの完成が必須となっている。</p> <p>第一部は、語学ボランティアとは何かという概要から、語学ボランティアにどのようなものがあるか事例とともに学ぶ。第二部は、長崎東山手をガイドとして案内するプロジェクトである。実際に現役ガイドの方の実演を見学し、ガイドできるように訓練する。モデルガイドを見学したのち学生自身がガイドを行い、案内役の方に評価していただく。第三部は、英語被爆講話の世界配信である。語り部の方々を技術面・言語面・コミュニケーション面から言語支援を学ぶ。</p> <p>到達目標およびテーマは、(1)多文化共生の視点から日本語および日本語以外の言語ボランティアについて学ぶ。(2)ボランティアとは何か、ボランティアの心構え・姿勢・サーバントリーダーシップについて学び、体現できるよう努力する。(3)習得対象の言語(英語または日本語)で行うボランティアのタイプについて情報を収集し、知識を深め、情報を自らの言葉で発信する。(4)チームで複数のボランティア・プロジェクトを達成する。(5)語学ボランティア活動を通じて平和とは何かについて考える。(6)必要とされる言語ボランティアについて市内在住外国人よりニーズを探り、情報を集め、発信できるようになる。(7)もてなしの心を学び、言葉の助けが必要な人に物おじせず英語で話しかけるようになる。(8)長崎(東山手)の歴史について見聞を深め、英語等でボランティアとしてガイドできるようになる。(9)ボランティアとして心をこめて東山手を案内できる自信をつける。</p>	
	Business English for Beginners	<p>ビジネス英語に特化したテキストを使い、ビジネスの場面を設定した会話表現などを繰り返し練習することにより、慣れ親しむことができるようにする。また、ビジネス文書の構成やフォーマルな英語表現などを学ぶ。</p> <p>この科目は、ビジネス英語の入門科目であり、総合的な英語運用能力を基盤にして、仕事で使う英語表現が理解できるようになると共に、自分でも使えるようになることを目標とする。ビジネスの場面と会話の目的に応じた英語表現を、読む・書く・聞く・話す、の4技能すべてで使えるようにし、スムーズなやり取りができるようになる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース共通科目）	Business Communication	<p>Students will become familiar with not only the basics of English business writing, but also communication skills needed in contemporary English business environments. Emails, business letters, memos, reports, and taking accurate minutes will be covered. Special attention will also be given to the differences in British and American English for a better understanding of the global impact and uses of English in international business. (English Only)</p> <p>Students will become familiar with the basics of practical English writing and communication skills for business situations through reading samples, practice and discussion.</p> <p>ビジネスの分野で必要な英語コミュニケーション能力とビジネスライティング・スキルの習得をこの授業の目的とする。電子メール、ビジネスレター、メモ、報告書、議事録など様々なタイプの文書を授業で取り扱い、それらの文書が書けるようになるよう、練習を積み重ねてゆく。イギリス英語とアメリカ英語の違いに着目しながら、国際ビジネスにおける英語の役割についても考察する。(英語のみ)</p>	共同
	通訳ガイド演習 I	<p>この授業では、通訳ガイドとして必要となる日本事象、文化、歴史等基礎知識ならびに長崎等の主要観光名所に関する知識の習得を目的とする。また、ガイド業務の1つである通訳練習も行う。外国人観光客を想定し、英語でガイディングをする練習をしながら、どのように説明すると伝わりやすいか考えながら説明の仕方を学ぶ。長崎の主要観光名所を実際に案内することを想定し、ガイディングの練習や通訳の練習を行い、ガイドをするのに必要な知識を身につけていく。</p>	
	通訳ガイド演習 II	<p>この授業は、通訳ガイド演習 I で学習した通訳ガイドとして必要となる日本事象、文化、歴史等の知識と、ナガサキの主要観光名所に関する知識を実践的な実習を通して、身につけていくことを目的とする。ガイド現場実習を通じて外国人観光客への説明の仕方（訪問観光地は状況に応じて変更の可能性あり）を実践的に学ぶ。また、観光地での通訳の実践も行う。外国人への英語ガイディングの基礎と、日本や長崎紹介、さらに通訳基礎訓練を通し、通訳ガイドに必要な技能を身につけていく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（国際キャリア系）	時事英語演習	<p>ニュース英語の特徴—構成、見出しの文法、文構造—について基礎を学んだ上で、SDGsに関連するトピックのニュースを各自で見つけてその内容を説明（発表）する。</p> <p>(1) ニュース英語の主要ソース(サイト)に精通し、必要な情報(記事)を検索できる、</p> <p>(2) ニュース英語の特徴を理解した上で、辞書なしで記事の8割を理解できる、</p> <p>(3) SDGsに関連するニュース記事を見つけ、その内容について発表できる、</p> <p>以上を授業の目標及びテーマとする。</p>	
	翻訳入門	<p>翻訳の第2段階である(転換)をどのようにおこなえばよいかを、日本語と英語の違いから考えていく。そして実際にその転換技法を使って、様々な分野のサンプル英文の翻訳を試みる。これらの基本的な転換技法と、代表的な翻訳理論を踏まえたうえで、起点言語としての英語から目標言語としての日本語への翻訳を、文芸翻訳分野と実務翻訳分野の双方で実践できるようになることを目標とする。また、母語として「わかっているつもり」の日本語の文法や構造にも改めて関心や疑問を持ち、外国語(主として英語)との構造・発想上の違いを常に意識できるようにすることも目標とする。</p>	
専門教育科目（コース共通科目）言語教育系	発音リズム法	<p>子どもに英語を教える際に使用するチャンツや、マザーグースなどの歌を練習する。季節ごとの行事に関係して使用できる歌、チャンツも学ぶ。また、自分たちでチャンツを創作する。将来「Teaching Young Learners I」「Teaching Young Learners II」の履修をする前に知っておくべき音声教育の基礎となる。また、この科目の履修と同時にしくは事前に「English Pronunciation」を履修することが必要である。この科目を通して、子どもに英語を教える際に使用する歌やチャンツを数多く覚え、子どもたちが理解できるようにジェスチャーをつけて歌えるようになる。歌、チャンツの練習を通して自然なリズムで英語を発音できるようになる。テーマに合わせて自分でチャンツを作れるようになる。</p>	
	言語学入門	<p>英語学の入門的内容から、英語学の関連諸分野までを広く取り扱い、英語という言語の仕組み全般への基礎的理解を深化させる。英語の音、語形成、語順、意味、言語習得、文化的規則などを扱っていく。</p> <p>英語という言語の仕組みについての基礎的知識を身につけ説明できるようになることを目的とする。英語の仕組みとして、英語学の各領域に焦点をあてる部分と領域の接点部分、例えば、英語の音と語形成、形式と意味のミスマッチなどにも焦点をあて、他の英語学/言語学関連の科目への橋渡しとなる知識を身につけ説明できるようになることを目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 (言語教育系 共通科目)	英語の発想と表現	<p>英語における基本的語彙がもつ中核意味を理解する演習を行うとともに、コミュニケーションに必須の英文法項目、語彙を英語学、認知言語学、語彙意味論の視点から捉え直す機会を提供する。高校までに学習してきた英文法、及び語彙がもつ意味情報を Communicative Grammar in Use の視点から捉え直すことによって英語のしくみと意味を理解し、英文創出や英語での発信ができるようになることを目標とする。</p> <p>必要に応じて、英語学関連分野の知見をもとに考察し、英語のしくみと意味について理解をさらに深め、授業で得た知識をコミュニケーションの場に応用できるようになることを目的とする。</p>	
	言語の意味と構造	<p>英文の構造を綿密に分析することにより、人間が生得的にもっている文法知識について理解し、説明できるようになることを目標とする。文は素性、語、句など様々なレベルで構成されており、それぞれの要素がどのように有機的に結びついて文が出来上がっているかについて考察する。授業では構成素テストを用いて文の構造を分析し、句構造の基本形についての理解ができるようにする。統語と意味のマッピングについても触れ、構造と意味がどのような関係にあるかについても検証していく。</p>	
	English Picture Book Studies	<p>Students will study the theme, vocabulary, expressions and content of the chosen books by reading aloud and checking understanding together. Students will learn reading-aloud techniques and read-aloud to each other, and carry out classroom activities based on the books. They will learn the cultural and historical background of the books, and biographical information about the authors. Students will use online resources via Moodle.</p> <p>この授業で、受講生は英語絵本の読み聞かせをする技術と習得すると共にそれぞれの本に使われているテーマ、語彙、表現、内容について学ぶ。読み聞かせの技術を身に着けるために、学生同士で読み聞かせをしながら内容を伝える表現力を身につける。また、そろえぞれの絵本の文化的、歴史的背景や著者について深く学ぶ。ムードルのオンラインリソースを使いながら活動を授業内外で行っていく。さらに、絵本の内容に沿った子ども英語活動を考え、実践できるように企画をしていく。これにより、読み聞かせの事後指導ができるようになる。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 （ コ ー ス 共 通 科 目 ）	Multicultural Education and Support	<p>Students will learn about the different communities using online resources, movies and newspaper articles, and take part in class discussions. They will research a multicultural society of their choice and present their findings, in order to deepen their understanding of the issues involved.</p> <p>“Multiculturalism.”</p> <p>Students will study multicultural communities around the world and the different approaches to multiculturalism taken by the host nations. Students will improve their ability to discuss and express their ideas in English.</p> <p>この授業では、オンラインのマテリアル、映画、新聞記事、授業内ディスカッションを使い、多文化社会の実態について学んでいく。学生が特に関心のある地域を選び、調べ、発表をする。この主体的な活動を通し、それぞれの地域の特徴、抱えている問題、そして、それに対し政府や地域がどのようにその問題を捉え、対応しているかを理解していく。</p>	
	Teaching English to Children I	<p>This is a practical workshop-style class with the emphasis on teaching English through English. Students will learn and practice teaching methods in class in preparation for teaching practice (TP) at local elementary schools and preschools.</p> <p>Students will learn and practice methods for teaching English to children in the Japanese context, from pre-school to elementary school 6th grade. They will increase their confidence in using English while learning activities suitable for children’s English classes.</p> <p>この授業は早期英語教育について学ぶ。子どもに英語を教える教授法を学び、Teaching English to Children II で実際に幼稚園や小学校に英語を教えに行くための準備の授業である。日本の小学校5年生、6年生に英語を教えるために必要な知識と技術を身につけることができる。</p>	
	Teaching English to Children II	<p>This is a practicum class with the emphasis on teaching English through English. Students will practice teaching methods with actual teaching practice (TP) at local elementary schools and preschools.</p> <p>Students will learn and practice methods for teaching English to children in the Japanese context, from pre-school to elementary school 6th grade. They will increase their confidence in using English while learning activities suitable for the young learners’ English classroom.</p> <p>この授業はTeaching English to Children I で学習した早期英語教育についての知識や教授法を実際に地域の幼稚園や小学校を訪問し授業をすることにより、子どもの実態に沿った教授法に関する理解を深める。幼稚園から小学校6年生までの発達段階を理解した上での言語活動を実践しながら、自分自身の英語力にも自信をつけることがねらいである。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 ( コ ー ス 共 通 科 目 )	Reading Activities I	<p>This is an active workshop-style class in which students practice reading aloud and create activities based on picture books. Students plan, prepare and carry out read-aloud and storytelling activities for parents and children at Storyland, Kwassui's international library of children's books. Students who wish to carry out graduation projects at Storyland.</p> <p>Students will improve their English skills and deepen their knowledge of English-speaking children's culture by reading English picture books. They will learn how to plan, prepare and carry out read-aloud, storytelling and literacy activities for children in English.</p> <p>この授業では活水女子大学の international library of children's books という英語絵本文庫での活動の支援を通して、在日外国人家族の子息の母語維持の取り組みと、早期英語教育を受けたいと希望する日本人家族の子息への読み聞かせ活動を行う技術を学ぶ。自分の子どもに英語の絵本の読み聞かせをしたいと考えている親御さんへの読み聞かせの指導や、読み聞かせ後の事後活動を企画、運営することにより、子どもの読む力をつける方法論を学ぶ。</p>	
	Reading Activities II	<p>This is an active workshop-style class in which students practice reading aloud and create activities based on the books. Students plan, prepare and carry out read-aloud and storytelling activities for parents and children at Storyland, Kwassui's international library of children's books. Students who wish to may carry out graduation projects at Storyland.</p> <p>Students will improve their English skills and deepen their knowledge of English-speaking children's culture by reading English picture books. They will learn how to plan, prepare and carry out read-aloud, storytelling and literacy activities for children in English.</p> <p>この授業では、Reading Activities I の基礎的な学びを受け、引き続き、活水女子大学の英語絵本文庫での活動の支援を通して、在日外国人家族の子息の母語維持の取り組みと、早期英語教育を受けたいと希望する日本人家族の子息への読み聞かせ活動を行う技術を深める。自分の子どもに英語の絵本の読み聞かせをしたいと考えている親御さんへの読み聞かせの指導や、読み聞かせ後の事後活動を企画、運営することにより、子どもの発達段階に応じた読み聞かせの方法論を学ぶ。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 ( コ ー ス 共 通 科 目 )	英語科教育法Ⅰ	<p>小学校、中学校、高等学校それぞれの学習指導要領を熟読し、それぞれの段階で児童・生徒が学ぶべきことを理解する。また、毎週の課題として出される小学校から高等学校までの教科書精査を行い、教えるべき内容に関する理解を深める。さらに、第二言語習得、言語要素及び4技能・5領域を育成するための指導法、教師の役割、学習者要因などについて基本的な知識を習得する。</p> <p>英語科教育法Ⅰ～Ⅳを通して、中学校や高等学校の英語科教育について専門的な知識と指導技術の習得を目指す。学習指導要領を基軸とし小学校・中学校・高等学校それぞれにおける到達目標を理解し、目標到達のための指導計画を立てられるようにする。その際「3つの資質」の育成をめざし、「5つの領域」それぞれを向上させるための指導法を習得する。英語科教育法Ⅰでは、特に、小学校での外国語活動の目的や活動の内容を理解した上で、中学校と高等学校の英語科教育の目的と目標を明確に理解し、小中高の連携を考えながら、教育の在り方や英語運用のための各技能育成のための指導の方法を、理論と実践の両面から学んでいく。</p>	
	英語科教育法Ⅱ	<p>授業を組み立てるために必要な教材精査の仕方、指導計画の立て方、授業の展開の仕方や、指導案(細密案)の書き方を実際の中学校、高校の教科書を使いながら行う。指導案をもとに、模擬授業を行う。中学校1年の入門期の指導から高校3年生までの授業を、授業者もしくは生徒役で一通り体験することにより、英語科教育の指導項目全般の流れと指導内容及び ICT を含む副教材の利用の仕方を理解する。</p> <p>英語科教育法Ⅰで学習した英語科教育の目的、目標、指導方法、学習者の特性に応じた指導などに関する知識をもとにして、英語科教育法Ⅱでは、それらの理解を深めるために具体的な授業の展開方法について実践的に学ぶ。授業の目標を明確に設定し、目標を達成するための言語活動を組む方法、そして評価の観点をおさえた指導案の書き方などを学ぶ。</p>	
	英語科教育法Ⅲ	<p>外国語教授法について文献を読み実践発表し、日本の英語科教育における英語コミュニケーション能力育成のために必要な知識を習得し、授業に効果的に組み込む方法を考える。英語科教育法Ⅰ、Ⅱでは詳しく扱っていない語彙、文法を4技能と有機的に結び付けていく指導や、使える言語活動についても主体的に考え、自律した学習者を育成するための教育について考えていく。</p> <p>英語科教育法Ⅰ、Ⅱで学習した学習指導要領をもとに理解を深めた英語科教育の目的、目標、教育内容、教授法、そして評価法について、英語科教育法Ⅲ、Ⅳでは、理論的、実践的にさらに理解を深めていく。ここでは、英語科教育において、学習が知識や技能の習得だけに留まらず、その知識や技能を使い何ができるか、またどのように社会とつながり自分の将来の可能性を描けるようになるか実感させるための英語を介した活動を考える。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 (言語教育系 共通科目)	英語科教育法Ⅳ	<p>英語科教育法Ⅰ～Ⅲで学習した小学校外国語活動、中学校1年生から高校3年生までの英語科教育に必要なことを確認しながら、毎週、模擬授業担当者が授業を行い、それに対して皆で評価しながらよりよい授業が展開できるようにする。ICTを含む教材の効果的な使い方に関してもしっかり考えていく。また、毎週テーマを設定し、そのテーマに沿って議論しながら、これまで学んできたことを確認する。学習指導要領を毎回持つてくること。</p> <p>英語科教育法Ⅰ～Ⅲで習得した小学校、中学校、高等学校の英語科教育に関する知識や指導方法を模擬授業を通して実践しさらに理解を深める。知識・技能の習得だけに留まらず、思考力、判断力、表現力をつけさせ、さらにそれを実際の生活の中で実践できるような主体性を身につけさせることができる授業にすることを目指す。</p>	
	言語習得論	<p>最初の6回で母語獲得の研究を取り上げ、残りの9回を思春期以降の第二言語習得に費やす。幼児の母語獲得と比べ、思春期以降の第二言語習得は何がどのように難しいのか、どうして達成度にこれほどの個人差があるのか様々な角度から考察していきたい。</p> <p>母語獲得と(思春期を過ぎてからの)第二言語習得の類似点・相違点について理解し、説明できることを目的とする。英語教育に携わる際に必要な、学習者の言語習得の段階的特徴を理解することで、語学教育を多面的な視野から検証できるようになる。</p>	
	日本語教育概論	<p>日本語教育に関する基本概念を講義形式で「伝達」する。受講生は、伝達された情報を整理し、理解し、記憶することが求められる。</p> <p>上記に基づき、基本的な教材を作成する。基本的な文献を通して外国人に対する日本語教育の全体像を把握する。(歴史・制度・領域)</p> <p>日本語教育で必要となる日本語に関する知識の基本を習得する。(形態・文型・機能・社会文化)</p>	
	日本語教育講義Ⅰ	<p>コースデザインに関わる基礎的な知識を学ぶ。具体的には、与えられた項目について調べ、授業計画を作成し、発表する。さまざまな日本語学習者、学習スタイル、学習ツールについて学ぶ。</p> <p>「日本語教育」「教室活動」「日本語教材」</p> <p>「日本語教育概論」で学んだ知識を実際の教室活動の中で生かしていくための、様々な活動について学ぶ。</p> <p>タスクやディスカッションを通して、自分の経験を振り返りながら、コースデザインについての考えを深めていく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース共通科目）	言語教育系		
	日本語教育講義Ⅱ	<p>現在、本学や長崎には様々な形で「外国人」に関わっている人々がいる。</p> <p>授業では、その人たちとの交流を通して意見を聞いたり意見交換したりすることで、本学や長崎における外国人支援の現状について考える。た、グループディスカッションやグループワークを通して、新たな活動支援のスタイルについての考えを深めていく。</p> <p>「外国人」「支援」「活動」</p> <p>身近なところから多文化共生社会について考え、現状を知る。その上で支援のタイプや可能性についての理解を深め、現状にふさわしい言語支援のあり方について考える。</p>	
	日本語教育講義Ⅲ	<p>日本語を教える上で、学習者の行動や考え方を理解したり、悩みの相談にのったりする際に役立つ知識を整理するとともに、タスクやディスカッションを通して、自分の経験を振り返りながら、日本語教育に関わる心理学的な基礎知識を身につけられるように進める。</p> <p>日本語教育に関わる心理学的な知識を学ぶ。具体的には、言語理解の過程、言語習得・発達、異文化理解と心理を理解する。</p>	
	日本語教育実習	<p>海外の大学や国内の日本語学校等において日本語教育の諸業務、教壇実習を行い、日本語教員としての実践力を育成する。目標は以下のとおりである。①当該日本語コースの目的とそのカリキュラムを理解できるようになる。②当該日本語コースで使用されている教材の構成と意図を理解できるようになる。③当該日本語コースで担当する部分について授業計画を立てられるようになる。④授業計画に基づいて授業を実践できるようになる。</p>	
日本語学系			
日本語学概論	<p>この授業の目的は次の2つである。第一は、コトバやコミュニケーションについて、問題点や課題に気づき、適切な手順に沿って、その問題点や課題の答えを導き出していくための、基本的な思考方法を身につけること。第二は、問題の発見と提起、方法、分析という過程を、客観性のある、正確な文章で表現記述する能力を身につけること。そのために、文献講読、口頭発表、論文作成を行う。</p>		
日本語学講義Ⅰ	<p>この授業のテーマと到達目標は以下の通りである。</p> <p>(1)コトバを分析する切り口を修得する。(2)現代日本語の分析を通して、言語分析の方法の基礎を修得する。(3)言語の分析を通して、論理的思考法と論理的説明の方法を修得する。(4)国語教育や日本語教育で必要とされる日本語についての知識を修得する。そのために、文献講読、口頭発表、論文作成を行う。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
日本語学系	日本語学講義Ⅱ	<p>主に日本語に関する音声学と音韻論の考え方を学ぶ。下記(1)(2)の目標を達成するために、自分自身の発音を客観的に観察し、音声学の基本的な知識を身につける。そして、身近な音声現象の観察や他言語との対照を通じて、音声学、音韻論の基礎となる概念を理解する。</p> <p>(1) 音声学の基本的な用語を使用し、日本語の音声を記述することができる。</p> <p>(2) 音韻論の考え方を理解し、日本語の音声現象を説明することができる。</p>	
	日本語学講義Ⅲ	<p>指定されたテキスト(コピー)を熟読し、それに基づいて現実のデータの中から課題を見つけ、その背後にある法則を見つけ出していくという作業を繰り返す。</p> <p>この授業では、日本語学講義Ⅱで学んだ日本語に関する基本的な知識と実際の日本語のデータなどに基づき、使用の実態を観察・考察する。</p> <p>「観察、課題の発見、考察、仮説の設定、検証」という手順を踏んで、言語研究を通して論理的に考え結論を導きそれを表出することができるようになることが到達目標である。それに合わせてデータの収集・分析の方法等を学ぶ。</p>	
専門教育科目(コース共通科目)	長崎史	<p>長崎の歴史のハイライトは約450年前の長崎開港から明治に至るまで、港を中心とした国際交流史そのものである。近世の長崎は日本で唯一公式の国際貿易港として異彩を放っていた。その歴史は近世史に不可欠なもので、長崎を学ぶことは日本を学ぶことに他ならない。一方、肥前・豊前・対馬という国々の歴史は多くの遺跡や遺物とともに古代から連続と継承されている。日本最西端に位置した地方の歴史と中央集権の歴史が同居する独特の歴史を有している長崎の歴史は日本史や東アジア史に直結している。このような多様性をもつ長崎史を、時代や地域区分を超えて、長崎の遺跡、人物、事件、出来事などに注目し掘り下げながら学んでいく。歴史的な事件や社会的な仕組みの他に、人物としての為政者、役人、遊女、農民など、さまざまな立場の人間の生き方を知り、これを単なる知識にとどめず今日生きる私たちの標にすることができる。</p>	
	長崎学系	長崎文化学	<p>長崎市は365日どこかで祭りやイベントが開かれているといわれるほど賑やかな街である。それは、観光政策として集客のために多くのイベントを開催していることにも一因はあるが、伝統的な行事や祭りが途絶えることなく継承されているからに他ならない。一過性のイベントと違い数百年の伝統を維持するには膨大なエネルギーが必要になる。経済規模以上の祭りを維持する人々のエネルギーの源泉は何か。住民の日常に存在している衣・食・住の特徴はどこにルーツがあるのかなどを具体的な事例を通して探っていく。発祥や変遷の歴史、現代の人々が大切にしている伝統や文化、「和・華・蘭」をキーワードとして長崎の年中行事や祭りの仕組みを解明し、長崎文化の深層を探求する。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース共通科目）	長崎学系 現代長崎学	<p>長崎は、人口減少・島しょ部政策等、様々な地域課題を抱えている。他方、長崎市は“100年に一度”の都市再開発が進み、地域経済の発展に向けた取り組みも数多く実践している。さらに、長崎の地域課題を考えると、あるいは自らが長崎に住むときに、長崎の地域医療や福祉の現状を理解することは自らが健康で幸福に暮らすためには必要なことである。</p> <p>本講義では、長崎の経済・産業・医療政策・福祉政策の現状と未来について理解を深めることを目標とする。</p> <p>到達目標</p> <p>(1)長崎の経済・産業の現状が説明できる。  (2)長崎の医療・福祉の現状が説明できる。  (3)長崎の地域課題解決に向けた政策・実践を提案できる。</p>	
	音楽系 音楽理論基礎	<p>音楽を記すものに「楽譜」がある。「楽譜」を読む上で必要な基本的な知識を理解することは、様々な楽曲にアプローチできる技術(わざ・すべ)を身につけることでもある。</p> <p>この授業では、音名(日独英伊)、五線譜の読み方(音部記号、拍子、調号、音高、リズム)、楽譜に付随する各種記号や楽語、コードネームを含む和声の基礎知識など、1つずつの項目を取り上げる。理解を深めるために、吹奏楽やオーケストラ、合唱などで実際に触れる楽譜を教材に用い、視唱や、聴音など、ソルフェージュ的な取り組みもする。</p>	
	音楽系 音楽表現Ⅰ	<p>文学が言葉を通して人間や社会の営み、自然を表現するジャンルであるように、音楽は演奏を通して作曲家の感じたそれらを表現するジャンルである。</p> <p>この授業では、担当者別に管弦打楽器、鍵盤楽器、声楽を扱い、楽器の演奏や歌うことを通じて音楽表現の可能性を理解し、作曲家が表現したかったことを感じ取る感受性を養っていく。授業は講義形式に加え、グループレッスンと個人レッスンを併用しながら各楽器や発声の基本奏法を習得し、各自の進度にあわせた楽曲や讃美歌などを演奏できるようにする。楽器や声楽の経験のない学生でも履修可能とする。</p>	<p>共同 講義 20 時間 実習 10 時間</p>
音楽系 音楽表現Ⅱ	<p>「音楽表現Ⅰ」で履修した内容の継続と発展を目指す。各分野の基本奏法を更に身に付けて行き、異なる時代や様式の楽曲に取り組み、曲による演奏表現の違いや共通点を理解する。講義形式に加え、グループレッスンと個人レッスンを併用しながら、また分野によっては2重奏、アンサンブルなど編成を拡大して表現の可能性を追求していく。様々な楽曲の経験値が増えることで、作曲家が表現したかったことを感じ取る力が磨かれることを期待する。「音楽表現Ⅱ」は「音楽表現Ⅰ」の履修者が同じ担当教員の授業のみ履修可能とする。</p>	<p>共同 講義 20 時間 実習 10 時間</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース共通科目）	音楽系	音楽史	ここでは「音楽とは何か？」をテーマに、クラシック音楽から初音ミク（ボーカロイド音楽）までを扱い、あらゆる音楽史の流れを概観的に把握するとともに、映像作品と文献を読み解きながら音楽の歴史について学ぶ。また、「年末になるとベートーヴェンの第九が演奏されるのはなぜか？」、「なぜ坂道系アイドルグループが複数存在するのか？」などといった音楽動向も考察対象とすることで、現在の音楽が一体どこへ向かって行くのかについて考え、これからの音楽に対する向き合い方について検討する。
		音楽メディア研究	音楽における「メディア」の可能性について、さまざまなアプローチから検討していく。 本講義ではまず「メディア」について考えるにあたり、ベンヤミン著作「複製技術時代の芸術作品」の精読を行い、ポストモダン論の視点から考察する。その後、オペラとポストドラマ演劇を例に舞台における「メディア」の導入を検討し、『蒸気船ウィリー』（1928）や『トムとジェリー』（1940）を例に映像と音楽について分析を行うことで、「メディア」に関して他面的に捉え直すことを目的とする。また、ポストプロダクション業務を根幹に置いた学習について問題集を解きながら学ぶとともに、ライブコーディング実習を通じて音や映像の作成に取り組む。
		アートマネジメント論	自分の売り込み方や SNS 活用術、知識の習得法とキャリア形成の考え方などを学び、芸術面と経済面両方において成功するための実践法について考える。 本講義では芸術の中でも音楽家に焦点を当て、マーケティングやプロジェクト管理、クラウドファンディングについて学習した後、ソーシャル・メディア戦略としての SNS や YouTube の活用について、実習を通じて検討する。将来音楽に携わる職に就きたい学生（音楽プロデューサーや芸能関係の裏方等）のみならず、これからの時代に向けたビジネス戦略について音楽を通して学ぶことができる。
	ビジネス系	情報実務総論	AI、ビッグデータ、IoT などの新しい技術に関する知識をはじめ、アジャイルなどの新しい開発手法、マーケティング戦略や事業戦略など経営全般に関する総合的な知識、セキュリティやネットワークなどの IT の基礎知識、著作権や産業財産権などの知的財産権、品質管理やプロジェクトマネジメントの知識など、情報実務において基本的な知識を学ぶ。企業活動における情報実務の意義、内容と情報通信技術に関する基本的な知識の修得を目的とする。
		情報リテラシー	AI、ビッグデータ、IoT などの新しい技術に関する知識をはじめ、アジャイルなどの新しい開発手法、マーケティング戦略や事業戦略など経営全般に関する総合的な知識、セキュリティやネットワークなどの IT の基礎知識、著作権や産業財産権などの知的財産権、品質管理やプロジェクトマネジメントの知識など、情報実務において基本的な知識を学ぶ。企業活動における情報実務の意義、内容と情報通信技術に関する基本的な知識の修得を目的とする。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース共通科目）	政治学	<p>“政治、”というキーワードは、“必要なのはわかるけど、興味を持ちづらい事柄、”の筆頭格に挙げられるキーワードである。連日、新聞やテレビでは、トップニュースとして政治の出来事が報道されている。表面上はその出来事をわかったつもりでも、その出来事の内情や背景、どのような原理的問題が潜んでいるかについては、どこかで勉強しておかないと考えが及ばないものである。</p> <p>この授業では、それぞれのテーマ毎に現実に生起している政治問題を題材として、政治学を学んでいく。</p> <p>テーマ: 時事問題から考える政治学</p> <p>到達目標</p> <p>(1) 新聞やテレビでの政治ニュースを説明できる。  (2) 国や地域の政治問題を討議できる。</p>	
	経済学	<p>経済学は、我々を取り巻く様々な経済活動の仕組みを学ぶ分野である。経済学を学習すると、客観的な経済指標(データ)に基づいて世の中の経済活動を俯瞰できるようになる。</p> <p>本講義では、経済学の基本的分類となる「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の基礎知識を学習する。「経済学的な考え方」を日常生活に生かすことができるようになることを目標とする。具体的には、「①客観的な経済指標(データ)を自らの力で読み込めるようになること」、「②ミクロ経済学の基本的な考え方を日常生活に活用できること」、「③マクロ経済学の基本的な考え方を日常生活に活用できること」の3つを学修到達目標とする。</p>	
	キャリアデザイン実習Ⅰ	<p>この授業は、自らのキャリアを構築するに際して自らの適格を知るため、また、これまでの学びを社会実践につなげていくための基礎を身につけるために開講されるものである。就業体験(実習)に先立つ「事前学習」では、自己目標の設定等を通じて目的意識の明確化を図り、実習をより充実したものとする。「事後学習」では、成果内容(自己目標の達成度、学んだこと等)についての発表を行い、今後の学習意欲・就業意識の向上や、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の形成を図る。尚、地域・ビジネスコースの学生にあつては、次年度に履修する「キャリアデザイン実習Ⅱ」に向けた足がかりとしての位置づけを持つ。</p> <p>到達目標</p> <p>(1) 職業観、社会観を養い、将来の進路について考え、その内容を表現することができる。  (1) 就業体験(実習)を通して学んだことを言語化し、他者にわかりやすく伝えることができる。  (2) 今後の学業や学生生活にどのように生かすかを具体的に考え、行動計画を立てることができる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース共通科目）	エアライン・ホスピタリティ講座	<p>ホスピタリティ業界の現状と課題を知るだけでなく、現場で活躍している方々の体験談や学生へのメッセージなどを直に聞くことで、社会人への意識を高め、将来の方向について深く考えることを目的としている。将来、ホスピタリティ産業への就職を目指す学生だけでなく、社会においてホスピタリティマインドを発揮するための基盤の確立を目指す内容でもある。本学と連携協定を結んでいる日本航空株式会社(JAL)と連携して、エアラインをはじめとするホスピタリティ業界の方々をスポットでお招きし、受講生の理解を深めていく。</p>	
	広告論	<p>本授業では、まず、マーケティングにおける広告の役割や広告戦略立案の基礎を学ぶ。次に、広告会社の第一線でご活躍の実務家を招き、広告制作の実際を具体的事例と共に紹介していただきながら授業を進める。また、受講生自ら広告制作とプレゼンテーションを体験し、社会人となって役立つ、自分の意思をいかにして伝えるかという「コミュニケーション能力」習得へのヒントを掴む。15回の授業を通じて、広告の持つ力や広告づくりの楽しさだけではなく、広告主の意図が受け手に伝わる広告物を企画・制作することやその時代に即した商品分析力を持つことの大切さを学び取ってほしい。</p> <p>到達目標は、(1)現代社会における広告の意義と機能について理解し説明できるようになる。(2)広告に関連する基礎概念・表現・戦略等を学習し身につけた上で、状況に応じた広告媒体とその効果的な表現方法を考え、自ら広告を企画できるようになる、以上の2点である。</p>	
	経営学	<p>経営学は、企業をはじめとする様々な組織を管理・運営するための手法を学ぶ分野である。本講義では、大きく分けて経営組織・人的資源管理・経営戦略・技術経営の内容について講義する。なお、企業の経営活動の重要な領域のひとつである「マーケティング」に関する内容は、1年次開講科目の「マーケティング論」で取り扱っている。こちらを併せて履修すると経営学の学びの領域を体系的に網羅できる。</p> <p>本講義では、企業をはじめとするあらゆる組織の経営活動を俯瞰できるようになることが目標である。具体的には、「①経営組織の形態が説明できるようになる」、「②人的資源管理の方法が説明できるようになる」、「③経営戦略の手法が説明できるようになる」、「④技術経営における製品開発・管理の手法が説明できるようになる」ことが学修到達目標となる。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 ( コ ー ス 共 通 科 目 )	民事法	<p>本講義では、民法や消費者契約法などの日常生活やビジネスで用いる法律に加え、会社法等のビジネス特有の世界で使われる法律についてその概要を学ぶ。また、外形的な法規定を修得してそれらの法律を実際に使いこなしていくための方法について学ぶことと併せて、法規定の解釈や制度の問題点を考察することとする。</p> <p>到達目標は、(1) 日常生活やビジネスにおける法制度の概要を説明できる。(2) 現在の社会状況と照らし、望ましい法制度の在り方について自分なりの意見を発信できる、以上の2点である。</p>	
	地域・行政と法	<p>本講義では、行政をめぐる法制度について学ぶ。具体的には国の行政について国家行政組織法を始めとする体系について、地方の行政について、地方自治法を始めとする体系について学んだ後に国と地方の役割分担の在り方等について考察する。次いで、地域社会と行政との関わりの在り方について法的視点から検討する。</p> <p>到達目標は、(1) 国と地方の行政に関わる法制度の概要について説明できる。(2) 国と地方の行政の役割分担について自分なりの意見を発信できる。(3) 地域社会と行政との関わりについて自分なりの意見を発信できる、以上の3点である。</p>	
	ビジネスコンピューティング	<p>Web ページを作成しながらHTML・CSSの基本を理解する。また、ユーザビリティ・アクセシビリティを考慮したデザインについて学び、多様なユーザや環境での閲覧を想定した設計とサイト構築を行う。</p> <p>Web サイトはインターネット社会の情報伝達に欠かせない媒体である。講義を通して、ユーザの環境に配慮した配色やレイアウトの知識と関連付けた設計ができるようになる。また、Web で使用される技術の標準化を図るW3Cに完全準拠した、セマンティックなコーディングができるようになる。</p>	
	地域マネジメント論	<p>長崎・九州では、観光資源開発や住民の生活福祉の向上に資する具体的な取組を実行していくことが求められる。とりわけ観光産業の振興は国家規模においても重要な領域であり、成長の加速が求められている。また、農山漁村・文化資源・スポーツ健康などの分野における課題探索も重要である。そこで、地域密着で具体的なテーマを見据え、実践可能な地域振興策をフィールドワークを通して学んでいく。</p> <p>地域マネジメントとは、地域住民の生活福祉の向上を目指し、安全で快適な生活環境を提供することを研究し、実践する学問である。授業では長崎・九州の課題解決を探索し、地域住民との協働やフィールドワークによって解決を図るフレームワークを策定することを目標とする。授業での学びを通じて、自らの言葉で地域社会の課題や解決策を説明できるようになる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース共通科目）	海外ボランティア活動 A	<p>Intercultural Youth Exchange(ICYE)による短期国際ワークキャンプ、短期 サンフランシスコ低所得者支援・教育・福祉、或いは中期 STePs への参加。活動内容は、古い建物や遺跡の修繕・修復、孤児院でのケア、各種フェスティバルの開催準備、環境保全作業、動物保護、低所得者支援、幼稚園での学習支援などがある。プロジェクト開催地および集合場所までの手配は全て参加者が自ら行う。「海外研修」「英語」</p> <p>世界中から来た若者と生活を共にし、一緒にボランティア活動を行うことで、異文化への理解を深め、価値観の違う人間と共存できる能力を獲得する。作業場での共通語は基本的に英語なので、意思疎通することにより、英語能力の向上にも努める。</p>	
	海外ボランティア活動 B	<p>Intercultural Youth Exchange(ICYE)による短期国際ワークキャンプ、短期 サンフランシスコ低所得者支援・教育・福祉、或いは中期 STePs への参加。活動内容は、古い建物や遺跡の修繕・修復、孤児院でのケア、各種フェスティバルの開催準備、環境保全作業、動物保護、低所得者支援、幼稚園での学習支援などがある。プロジェクト開催地および集合場所までの手配は全て参加者が自ら行う。「海外研修」「英語」</p> <p>世界中から来た若者と生活を共にし、一緒にボランティア活動を行うことで、異文化への理解を深め、価値観の違う人間と共存できる能力を獲得する。作業場での共通語は基本的に英語なので、意思疎通することにより、英語能力の向上にも努める。</p>	
	海外インターンシップ A	<p>通常は、学内での説明会、LINE・スカイプを通しての面談等を経て、夏休み(または春休み)に 4 週間の就業体験をおこなう。帰国後、レポートを作成・提出し、体験談のプレゼンテーションをおこなう。</p> <p>ただし、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大が収まり、海外渡航が安全であると大学によって認められるまでは海外派遣プログラムの募集ができない。オンラインインターンシップなどの募集があれば、代替プログラムとして紹介されることもあるので、説明会のお知らせがあれば参加すること。</p> <p>海外で実施される短期キャリアインターンシップを通して、働く側として海外生活を経験しさまざまな国の人と交流することで、異文化に対する理解と自文化を客観視することができるようになる。コロナ禍で海外渡航が難しい間は、オンラインで実施される海外インターンシップへの参加を通し、国際的な課題を理解しその課題に対しどのようなことができるのかを自分の言葉で表現できるようになる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目（コース共通科目）	海外活動	<p>学内での説明会、LINE・スカイプを通しての面談等を経て、夏休み(または春休み)に4週間の就業体験をおこなう。帰国後、レポートを作成・提出し、体験談のプレゼンテーションをおこなう。</p> <p>オーストラリア、シドニーにおける4週間無給キャリアインターンシップを通して、働く側として海外生活を経験し、実際に客や雇用主が使う口語やビジネス用語、種々のアクセント等を理解し、業務をこなすうえでしっかりと通じる英語を話そうと努力することを目標とする。就業体験を通してさまざまな国の人と交流するので、異文化に対する理解と受容も重要な目的となる。</p>		
	外国人留学生対象科目	アカデミック・ジャパニーズ I a	<p>本授業では、初中級レベルの語彙と漢字の意味や使い方を学ぶ。これまで学んだ漢字を復習・整理しながら、新しい漢字の読みや意味を理解し、場面や文脈にあった漢字語彙が使えるようになることを目指す。また、漢字や語彙を文章の中で理解できるようになることを目指す。学生同士で学んだ漢字の意味や使い方を説明したり、短作文を書き評価し合うなどのグループワークを行う。まとめとして、学んだ漢字の意味や使い方の発表も行う。定着のために、課ごとに小テストを行う。</p>	
	外国人留学生対象科目	アカデミック・ジャパニーズ I b	<p>本授業では、語彙、表現、構成などに気をつけながら文章を読み、内容を理解し、要点を説明できるようになることを目指す。また、日本の文学作品や新聞などを読むことで読解に必要な言語能力や推論・論理力の向上も目指す。</p> <p>文章を読み、内容の理解を目指すだけでなく、クラスメイトとのピア学習を通して、内容について日本語で議論する。また、内容について関連する記事を紹介するなどの活動により、書かれている内容の背景知識を得る。自分の見解をまとめる活動も行う。</p>	
	外国人留学生対象科目	アカデミック・ジャパニーズ I c	<p>本授業では、初中級の文法を身につける。また、初中級の文法の要点を押さえ、中級・上級への基礎固めを目指す。</p> <p>学んだ知識が「わかる」から「使える」ようになるために、学んだ文法を用いて短作文を書くなどの練習を行う。また、日本語能力試験受験対策も行う。自律的に文法を学ぶ姿勢を身につけるために、毎週、課題を課し、自分で調べながら学習を進めることができるようにする。小テストや復習の時間を設け、繰り返し学習により、文法の定着を図る。</p>	
	外国人留学生対象科目	アカデミック・ジャパニーズ II a	<p>本授業では、中上級レベルの語彙と漢字の意味や使い方を学ぶ。これまで学んだ漢字を復習・整理しながら、新しい漢字の読みや意味を理解し、場面や文脈にあった漢字語彙が使えるようになることを目指す。また、漢字や語彙を文章の中で理解できるようになることを目指す。学生同士で学んだ漢字の意味や使い方を説明したり、短作文書き評価し合うなどのグループワークを行う。まとめとして、学んだ漢字の意味や使い方の発表も行う。定着のために、課ごとに小テストを行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース共通科目） 外国人留学生対象科目	アカデミック・ジャパニーズⅡb	<p>本授業では、語彙、表現、構成などに気をつけながら文章を読み、内容を理解し、要点を説明できるようになることを目指す。また、日本の文学作品や新聞などを読むことで読解に必要な言語能力や推論・論理力の向上も目指す。</p> <p>文章を読み、内容の理解を目指すだけでなく、クラスメイトとのピア学習を通して、内容について日本語で議論する。また、内容について関連する記事を紹介するなどの活動により、書かれている内容の背景知識を得る。自分の見解をまとめる活動も行う。</p>	
	アカデミック・ジャパニーズⅡc	<p>本授業では、中上級の文法を身につける。また、中上級の文法の要点を押さえ、超級への基礎固めを目指す。</p> <p>学んだ知識が「わかる」から「使える」ようになるために、学んだ文法を用いて短作文するなどの練習を行う。また、日本語能力試験受験対策も行う。自律的に文法を学ぶ姿勢を身につけるために、毎週、課題を課し、自分で調べながら学習を進めることができるようにする。小テストや復習の時間を設け、繰り返し学習により、文法の定着を図る。</p>	
	アカデミック・ジャパニーズⅢa	<p>本授業では、わかりやすい文章とは何か、よく伝わる文章とは何か、ポイントを押さえた文章や説明が書けるようになることを目標とする。また、ピア・ラーニングにより、他者と対話することにより、互恵的で、創造的な活動を目指す。</p> <p>提示されたテーマから、構成を練り、各自作文を書き、クラスメイトと話し合いによる推敲を行う。ディスカッションを通して、語彙表現を学んだり、正しさなどについて考える。</p> <p>書いた文章を発表し、語彙・表現・構成など言語的な側面だけでなく、声の大きさ、発音などについても学習者同士で評価する活動も行う。</p>	
	アカデミック・ジャパニーズⅢb	<p>本授業では、生活場面や大学内で必要な日本語を適切に使用できる能力の向上を目指す。また、グループ・ディスカッションやグループでの活動を通して、日本語の理解力・表現力を高めるとともに自分の考えを深めていくことも目標とする。</p> <p>知識として表現方法を学んだ後、学んだ表現を使うアクティビティを行う。また、テーマに基づき、ディスカッションを行い、ディスカッションの内容を踏まえて、自分の考えを発表する活動も行う。発音のトレーニングも適宜行う。</p>	
	アカデミック・ジャパニーズⅣa	<p>本授業では、レポートや論文、日常の文章などを自然な日本語で書くことができるようになること、読み手の立場になって推敲することができるようになることを目標とする。</p> <p>日本語の書き言葉の規則を学ぶ。学んだことをふまえて、実際にレポートや論文を執筆し、ペアやグループで推敲する。また、自分の文章を自分で見直す活動も行う。繰り返し練習をすることにより、文章表現の基礎を固め、日本語の文章力を高める。また、読み手が理解できるかと言う観点に立って、見直す力を養う。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 (コース共通科目)	外国人留学生対象科目	アカデミック・ジャパニーズIVb	<p>本授業では、口頭発表に必要な日本語を適切に使用できる能力の向上を目指す。また、ディスカッションやグループ課題を通して、日本語の理解力・表現力を高めるとともに自分の考えを深めていくことも目標とする。</p> <p>授業で扱うトピックについてのグループディスカッションを行う。ディスカッションの内容を踏まえて、レポートを作成し、クラス内で発表を行う。発表者は自己評価をし、聴衆はコメントシートを書くなど、学習者同士の評価活動も取り入れる。発音のトレーニングも適宜行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際文化学部国際文化学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 ( コ ー ス 専 門 科 目 )	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン コ ー ス	Academic English I  In this course, you will listen to TV episodes from an English-language TV program about New York. After listening, you will answer comprehension questions. Finally, you will summarize the programs and reflect on the issues they introduce. You will also develop your listening skills by listening to online recordings and keeping a listening journal. You will set your own learning goals in the Language Portfolio.(English Only) You will enhance your English listening skills so as to be better able to follow TV programs on topics of cultural interest. 本コースでは、ニューヨークに関する英語のテレビ番組を用いたリスニングと内容理解の訓練を行う。学生は、番組の内容を要約し提示された問題について熟考する。また、オンラインの音声聞きリスニング・ジャーナルを付けることにより、リスニング力を育成する。学生は、学習目標を設定し、『ランゲージ・ポートフォリオ』に記入する。(授業は英語以外の使用を禁止する。)文化に関して興味深いテーマを扱っているテレビ番組をより広く深く理解できるようにリスニング力を鍛錬する。	共同
		Academic English II  In this course, you will listen to intermediate-level lectures and take notes. After listening, you will complete comprehension exercises. A presentation will allow you to reflect on topics and skills covered in the textbook and consolidate what you have learned. Finally, you will listen to materials available on the Internet and keep a listening journal. You will set your own learning goals in the Language Portfolio.(English Only) You will enhance your English listening and note-taking skills so as to be able to follow academic lectures at the intermediate level. 本コースでは、中級の講義のリスニングとメモを取る訓練を行い、内容理解の問題に取り組む。プレゼンテーションで教科書に書いてあるトピックと英語力について振り返り、学びを強化する。ウェブ上で利用可能なリスニング教材を用いてリスニング・ジャーナルを付ける。学生は、学習目標を設定し、『ランゲージ・ポートフォリオ』に記入する。(授業では英語以外の使用を禁止する。)中級の講義をしっかりと理解できるようになるためにリスニング力とメモ取りの技術を鍛える。	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 ( コー ス 専 門 科 目 )	Academic English III	<p>Academic English III will further help you further develop your fundamental English skills as well as group discussion and presentation skills with a view to achieving a tangible improvement in your proficiency on the CEFR scale. (English Only)</p> <p>I. You will develop your English proficiency and critical thinking skills so that you can better use English to study academic subjects, take part in discussions both in the academic world and in daily life, and give presentations. II. You will develop your self-regulative habits so as to become a more autonomous learner.</p> <p>アカデミックイングリッシュ III では、II に引き続き、CEFR スケールの英語力が目に見えて向上するよう、基本的な英語力を育成し、グループディスカッションやプレゼンテーションのスキルを身に着ける。 (授業は英語以外の使用を禁止する。)</p> <p>I. 学生は、学術的論題について学ぶため、また学術的および日常的な話し合いに参加しプレゼンテーションで英語をうまく使えるようになるために、英語力と批判的思考力を高める。 II. 学生は、自学自習の習慣を身に着け、自律的学習者を目指す。</p>	共同
	Academic English IV	<p>Academic English IV will further help you further develop your fundamental English skills as well as group discussion and presentation skills with a view to achieving a tangible improvement in your proficiency on the CEFR scale. (English Only)</p> <p>I. You will develop your English proficiency and critical thinking skills so that you can better use English to study academic subjects, take part in discussions both in the academic world and in daily life, and give presentations. II. You will develop your self-regulative habits so as to become a more autonomous learner.</p> <p>アカデミックイングリッシュ IV では、III に引き続き、CEFR スケールの英語力が目に見えて向上するよう、基本的な英語力を育成し、グループディスカッションやプレゼンテーションのスキルを身に着ける。 (授業は英語以外の使用を禁止する。)</p> <p>I. 学生は、学術的論題について学ぶため、また学術的および日常的な話し合いに参加しプレゼンテーションで英語をうまく使えるようになるために、英語力と批判的思考力を高める。 II. 学生は、自学自習の習慣を身に着け、自律的学習者を目指す。</p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 （ コ ー ス 専 門 科 目 ）	Academic English V	<p>Academic English V will further help you develop your fundamental English skills as well as group discussion and presentation skills with a view to achieving a tangible improvement in your proficiency on the CEFR scale. (English Only).I. Students will develop their English proficiency and critical thinking skills so that they can better use English to study academic subjects, discuss a wide range of personal, cultural, intercultural, and social issues, and give clear and detailed presentations.II. Students will develop their self-regulative habits so as to become more autonomous learners.</p> <p>アカデミックイングリッシュVでは、IVに引き続きCEFRスケールの英語力が目に見えて向上するよう、基本的な英語力を育成し、グループディスカッションやプレゼンテーションのスキルを身に着ける。(授業は英語以外の使用を禁止する。)I. 学生は、学術的論題について学ぶため、また学術的および日常的な話し合いに参加しプレゼンテーションで英語をうまく使えるようになるために、英語力と批判的思考力を高める。II. 学生は、自学自習の習慣を身に着け、自律的学習者を目指す。</p>	共同
	Academic English VI	<p>Academic English VI will further help you develop your fundamental English skills as well as group discussion and presentation skills with a view to achieving a tangible improvement in your proficiency on the CEFR scale. (English Only)</p> <p>I. Students will develop their English proficiency and critical thinking skills so that they can better use English to study academic subjects, discuss a wide range of personal, cultural, intercultural, and social issues, and give clear and detailed presentations.</p> <p>II. Students will develop their self-regulative habits so as to become a more autonomous learners.</p> <p>アカデミックイングリッシュVIでは、Vに引き続き、CEFRスケールの英語力が目に見えて向上するよう、基本的な英語力を育成し、グループディスカッションやプレゼンテーションのスキルを身に着ける。(授業は英語以外の使用を禁止する。)</p> <p>I. 学生は、学術的論題について学ぶため、また学術的および日常的な話し合いに参加しプレゼンテーションで英語をうまく使えるようになるために、英語力と批判的思考力を高める。</p> <p>II. 学生は、自学自習の習慣を身に着け、自律的学習者を目指す。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース専門科目） 英語コミュニケーションコース	Academic English VII	<p>Academic English VII will further help you develop your fundamental English skills as well as group discussion and presentation skills with a view to achieving a tangible improvement in your proficiency on the CEFR scale. (English Only)</p> <p>I. Students will develop their English proficiency and critical thinking skills so that they can better use English to study academic subjects, discuss a wide range of personal, cultural, intercultural, and social issues, and give clear and detailed presentations.</p> <p>II. Students will develop their self-regulative habits so as to become a more autonomous learners.</p> <p>アカデミックイングリッシュ VII では、VI に引き続き、CEFR スケールの英語力が目に見えて向上するよう、基本的な英語力を育成し、グループディスカッションやプレゼンテーションのスキルを身に着ける。 (授業は英語以外の使用を禁止する。)</p> <p>I. 学生は、学術的論題について学ぶため、また学術的および日常的な話し合いに参加しプレゼンテーションで英語をうまく使えるようになるために、英語力と批判的思考力を高める。</p> <p>II. 学生は、自学自習の習慣を身に着け、自律的学習者を目指す。</p>	共同
	Academic English VIII	<p>Academic English VIII will further help you develop your fundamental English skills as well as group discussion and presentation skills with a view to achieving a tangible improvement in your proficiency on the CEFR scale. (English Only)</p> <p>I. Students will develop their English proficiency and critical thinking skills so that they can better use English to study academic subjects, discuss a wide range of personal, cultural, intercultural, and social issues, and give clear and detailed presentations.</p> <p>II. Students will develop their self-regulative habits so as to become a more autonomous learners.</p> <p>アカデミックイングリッシュ VIII では、VII に引き続き、CEFR スケールの英語力が目に見えて向上するよう、基本的な英語力を育成し、グループディスカッションやプレゼンテーションのスキルを身に着ける。 (授業は英語以外の使用を禁止する。)</p> <p>I. 学生は、学術的論題について学ぶため、また学術的および日常的な話し合いに参加しプレゼンテーションで英語をうまく使えるようになるために、英語力と批判的思考力を高める。</p> <p>II. 学生は、自学自習の習慣を身に着け、自律的学習者を目指す。</p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 （ コ ー ス 専 門 科 目 ）	Paragraph Writing	<p>Paragraph Writing will enable students to write about topics in correctly-constructed Academic English-style paragraphs. The goal of Paragraph Writing will focus on the ability to compose well-structured English paragraphs. Students will learn about writing topic sentences, supporting sentences, and concluding sentences, as well as various types of paragraphs, transitions, and sentences. (English Only)</p> <p>Students will come to understand basic English paragraph construction including topic sentences, supporting sentences and concluding sentences, and get practical practice writing multiple paragraphs of their own.</p> <p>この科目の目的は、学生が論理的な文章構成から成る学術的パラグラフを英語で書けるようになることである。そのために、学生は英語の基本的なパラグラフの構造、すなわち、トピック・センテンス(主題文)、サポーティング・センテンス(支持文)、コンクルーディング・センテンス(結論文)について教科書の練習問題等を通して具体的に学ぶとともに、複数回の英語のパラグラフの提出が課せられ、その都度、教員の添削(フィードバック)を受ける。</p>	
	English Media Literacy	<p>This course will introduce you to a series of media-related topics through readings from the textbook and short presentations by the teacher. In class, you will complete vocabulary and comprehension exercises. Weekly homework assignments as well as a final report will allow you to further reflect on the topics covered in class. Homework assignments will require you to use a Moodle forum to post your own ideas and comment on your classmates' posts. (English Only)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. You will reflect on the role of media in contemporary life.</li> <li>2. You will develop your English reading skills.</li> <li>3. You will become better able to discuss media-related issues in English.</li> </ol> <p>本科目では教科書および教員が作成した教材(パワーポイント資料等)を用い、メディアに関する問題について学ぶ。授業では、学生は語彙と内容確認のための練習問題に取り組み、宿題として授業で扱った問題に対する自分の意見を Moodle フォーラムに提出し、クラスメイトの意見についてコメントすることが課せられる。この毎週の課題と最終レポートを提出することにより、学生は授業で扱った問題について更なる考察を行うことができる。(授業は英語のみ使用)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代社会におけるメディアの役割について考察する。</li> <li>2 英語読解力を伸ばす。</li> <li>3 メディアに関する問題について英語で論述できるようになる。</li> </ol>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース専門科目） 英語コミュニケーションコース	Essay Writing	<p>This course is part of a one-year program designed to help students learn to write effective paragraphs and essays in academic English. The focus of the first half-year course is mainly on writing paragraphs; this course builds on skills previously learned and helps students transition from writing paragraphs to essays. It is a practical course, and students will learn by doing. They will practice the basics of writing in various textbook exercises, and then learn how to structure and develop their own ideas into coherent paragraphs and essays. (English Only)</p> <p>Students will develop their academic writing skills, gaining confidence in their writing ability as they practice and learn. The end-of-term goal is for students to be able to write an effective multi-paragraph essay.</p> <p>この科目は、1年間のライティング・プログラム(前期はパラグラフ・ライティング)の後期に開講される科目であり、学生が複数のパラグラフから成る論理的な英語のエッセイを効果的に書けるようになることを目的とする。前期に習得したスキルに基づき、教科書の様々な練習問題を通した英作文の基礎固めと、自分の考えを論理的にパラグラフやエッセイで表現する訓練を通して、学生は自分の考えを複数のパラグラフからなる論理的な英文で表現できるようになる。 (授業は英語のみ使用)</p>	
	Academic Writing	<p>This course is intended for students who wish to write a graduation thesis, but it can be taken by anyone who wishes to improve her writing and research skills. In-class exercises and weekly assignments will acquaint you with the rules and customs of academic writing. You will further hone your newly acquired skills by planning, researching, organizing, writing, documenting, and revising a short academic paper on a topic of your choice. (English Only)</p> <p>You will learn how to plan, research, organize, write, document, and revise an academic paper. この科目は、英語で卒業論文を書く予定の学生や、英作文の上達やリサーチ・スキルの向上を目指す学生を対象としている。学生は教科書および教員が作成したハンドアウトを用い、学術論文を書くための方法や規則を具体的に学ぶとともに、授業で学んだ学術論文作成の過程(立案、リサーチ、アウトライン、文書化、注と文献、校正)を踏みながら、適宜、教員の指導(フィードバック)を受けた小論文を、学期末に提出する。(授業は英語のみ使用)</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース専門科目） 英語コミュニケーションコース	English Pronunciation	<p>You will learn English articulation, prosodic features such as stress, rhythm, intonation, and various sound changes in connected speech in class. You are required to practice reading English words, sentences, and paragraphs aloud at home every day. You have chances to recite some of them in class.</p> <p>You will learn and understand the differences between English and Japanese pronunciation. With the knowledge of basic English phonetics, you will be able to improve your own pronunciation. You can also improve your listening skill.</p> <p>この科目は英語の発音について分節音素と超分節音素の両方から学ぶ。超分節音素とは、アクセント、リズム、イントネーション、音変化などである。日本語の音声特徴と英語の音声特徴の違いを知ること、自分の発音を客観的に評価できるようになる。自分の発音を自己評価し向上するための目標を立て、向上を目指すための英語音声に関する知識を学ぶ。この経験を通して、教員になった時に生徒の発音指導ができるようになることを目指す。</p>	共同
	Advanced Reading I	<p>Students are required to read several reading materials related to the topic of each class. You will practice some reading techniques in class. After reading each material, you will be asked to retell or summarize the content, and express your opinion concerning the topic. In this way, you will improve your reading skill as well as critical thinking skill.</p> <p>In this class, you will be able to improve the following skills:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. various types of reading skills</li> <li>2. vocabulary building (both receptive and active vocabularies)</li> <li>3. critical thinking skill (through oral and written production such as outlining, retelling and summarizing, etc.)</li> </ol> <p>この科目では、英語で書かれた読み物を読むための様々なリーディングテクニックを学ぶ。情報を取り、まとめる力をつけるため、毎回読み物を読んだ後、内容を要約したり、概要をまとめたり、内容に関する意見をまとめ発表する。これにより、英語で読む力をつけると共に、批判的思考力を身につけることができる。この授業を通して様々なタイプの読み物を読む力、語彙力増強、批判的思考力を身につけることができる。</p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 （ コ ー ス 専 門 科 目 ）	Advanced Reading II	<p>Students are required to read several reading materials related to the topic of each class. You will practice some reading techniques in class. After reading each material, you will be asked to retell or summarize the content, and express your opinion concerning the topic. In this way, you will improve your reading skill as well as critical thinking skill.</p> <p>In this class, you will improve the following skills:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. various types of reading skills</li> <li>2. vocabulary building (both receptive and active vocabularies)</li> <li>3. critical thinking skill (through oral and written production such as outlining, retelling and summarizing, etc.)</li> </ol> <p>この科目では、英語で書かれた読み物を読むための様々なリーディングテクニックを学ぶ。情報を取り、まとめる力をつけるため、毎回読み物を読んだ後、内容を要約したり、概要をまとめたり、内容に関する意見をまとめ発表する。これにより、英語で読む力をつけると共に、批判的思考力を身につけることができる。この授業を通して様々なタイプの読み物を読む力、語彙力増強、批判的思考力を身につけることができる。</p>	共同
	Advanced Reading III	<p>You will read two articles and view one video in each unit. You will also be instructed to write a paragraph that is related to the content of reading materials.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. By reading a range of academic texts, you will acquire advanced reading skills, develop logical thinking abilities, and expand your vocabulary.</li> <li>2. Through systematic exercises, you will learn to write well-formed sentences and unite them in a paragraph.</li> </ol> <p>それぞれのユニットで、2つのアカデミックな内容のテキストを読み、1つの英語ナレーション付きの動画を視聴する。テキストの内容に基づき、パラグラフを作成することも求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々なジャンルのテキストを読み、分析することにより、高度な読解能力と理論的に物事を考える力を習得する。又、語彙力も増強する。</li> <li>2. パラグラフのレベルでまとまりのある文章を作成できるようにする。</li> </ol>	共同
	Advanced Reading IV	<p>You will read two articles and view one video in each unit. You will also be instructed to write a paragraph that is related to the content of reading materials.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. By reading a range of academic texts, you will acquire advanced reading skills, develop logical thinking abilities, and expand your vocabulary.</li> <li>2. Through systematic exercises, you will learn to write well-formed sentences and unite them in a paragraph.</li> </ol> <p>それぞれのユニットで、2つのアカデミックな内容のテキストを読み、1つの英語ナレーション付きの動画を視聴する。テキストの内容に基づき、パラグラフを作成することも求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々なジャンルのテキストを読み、分析することにより、高度な読解能力と理論的に物事を考える力を習得する。又、語彙力も増強する。</li> <li>2. パラグラフのレベルでまとまりのある文章を作成できるようにする。</li> </ol>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース専門科目）	英語コミュニケーション特講	異文化理解、英語教育、子ども英語教育、または、国際キャリアに関わる理解を深めるための特別講義である。それぞれの分野で活躍されている外部講師を招き、その専門領域から講義を受ける。国際的視野を持ちながら、地域や社会に貢献するというのがどのようなことなのか学ぶ。講義は、講義形式、ワークショップ形式、また、海外とつないでオンライン形式で行うこともある。講義やワークショップを通して学んだことを基に、レポートを提出することが求められる。	
	英語コミュニケーション専門セミナーⅠ	このセミナーでは、「異文化理解」「教育」「国際キャリア」「文化比較」などをテーマとした英語で書かれたものから情報を読み取る力、さらに、それを土台に各自がさらに調べ理解を深め、その内容に関して自分の意見を効果的に論理的に表現できるようになることを目指す。また、読み物の内容やクラス内ディスカッションを通して、自分のものの見方や考え方、価値観を認識することができるだけでなく、他者の考えに触れ共有することの大切さを学び、視野を広げることをねらいとしており、今後研究を行う上で必要となる多角的に分析する力や論理的な思考力を身につけていくことを目指している。	共同
	英語コミュニケーション専門セミナーⅡ	このセミナーでは、「専門セミナーⅠ」で学習したスキルを基に、論文を書くための基礎的なことを学ぶことが目的である。それぞれの受講生が自らテーマを設定し、各自で調査・分析を行い、考察を深める。卒業論文に繋がる研究のテーマを決めるために、関心のあるテーマを選択し、関連の文献を収集する方法や読んだものから情報を整理していきながらアウトラインが立てられるように進めていく。定期的に進捗状況をクラスで発表し、意見交換を行うことで、各自の研究の位置づけを明確にし、卒業論文の基礎となる研究を進める。	共同
	英語コミュニケーション専門セミナーⅢ	「専門セミナーⅡ」までに培ってきた研究・調査経験を活かしながら、自分が決定した卒業論文のテーマや研究・調査方法によって、調査・論文執筆を進める。毎回の授業では、研究（論文執筆）の経過報告を行い、他の受講生や教員とのディスカッションを通じて考察を深めていく。必要に応じて、教員による個別指導も実施する。 (1) 専門セミナーⅡまでの学修を踏まえ、自分が設定したテーマについて、それを調査・分析する方法を決定し、調査・論文執筆を進めることができる。 (2) 発表や議論を通じて、自らの考えを理論的、説得的に他者に伝えることができる。	共同
	英語コミュニケーション専門セミナーⅣ	これまでの「専門セミナー」で培ってきた研究・調査経験を活かしながら、自分が決定した論文のテーマ、調査方法によって、卒業論文を完成させる。毎回のセミナー内では、論文執筆の経過報告を行い、他の受講生や教員とのディスカッションを通じて考察を深め、より説得力のある論文にまとめていく。教員による個別指導も実施し、最終的にアカデミックな論文の完成を目指す。 (1) これまでの「専門セミナー」での学修を踏まえ、自分が決定したテーマ、調査方法によって研究を進め、論文にまとめることができる。 (2) 発表や議論を通じて、自らの考えを理論的、説得的に他者に伝えることができる。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（文化コース専門科目）	日本の文化入門	<p>この授業は、日本文化コースにおいて、日本文化を体系的に学ぶための基礎的な授業である。日本の文化と言っても、古代から現代まで 1000 年以上にわたって存在しており、またその内容も多岐にわたっている。そこで、日本の文化を研究するとは、具体的には何を研究対象とするのか、どのような視点で行うことができるのか、またこの研究によって何が分かるのか等について、主に日本史学・日本文学の二つの分野の観点から学ぶことが出来る。</p> <p>(オムニバス方式全 15 回)</p> <p>(5 細井浩志・13 古家敏亮/1 回)、(5 細井/7 回)日本史学、(13 古家/7 回)日本文学</p>	オムニバス方式
	古典文学の概要を学ぶ	<p>奈良・平安時代の作品を中心として、和歌や物語、日記文学、説話などのジャンルに属する作品を読む。</p> <p>原文を正確に音読し、古語の意味を知り、内容を理解するための文化的な基礎知識(建築・服飾など)も幅広く身につける。授業時に取り上げた作品について、調べた上で考察を加える課題を複数回出す。</p> <p>日本の古典文学の内容と展開をその背景となる歴史的なできごとと関連させながらつかむ。各時代の文化的事象や生活習慣などにも目を向ける。断片的な知識ではなく、作品相互のつながりをとらえることができる広い視野が持てるようになる。</p>	
	現代文学の概要を学ぶ	<p>大まかに言って、明治～現代までの文学を概観する。文学史的な流れを踏まえつつ、具体的な文学テキストを解説、解説しながら、近代以降の文学が何を対象にし何と格闘し、何を目指してきたのかを素描する。そこでは内容、形式、素材、表現、流派などの要素について検証し、さらにどのような到達点と弱点があるのか、ということにも考察を広めていく。受講生は、毎回取り上げる文学テキストについてしっかりと読み込んでおくことが前提となる。なお、理解を深めるために、毎回の課題と合計3回のレポート提出を課す。講義を聞いて自分の視点で分析することが必要だからである。</p>	
	日本史の概要を学ぶ I	<p>この授業は、おおよそ原始～中世の日本史の概略を理解することが目的である。そもそも、「日本」という国は 8 世紀の初めころに誕生した。まずはその前提となる、原始時代の日本列島での社会の様相から初めて、縄文時代の社会・文化、続いて弥生時代における倭のクニグニの発生と古墳時代における展開を学ぶ。そして「日本」という国がなぜ生まれたのかを学び、続いてこの「日本」という国と社会がどのように発展していったのかを、平安時代から鎌倉・南北朝・室町時代にかけて学ぶ。以上によって、日本という国と社会とがどのように形成され、「日本」という認識が成立したのかを理解することができるようになる。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 (コース 専門 科目)	日本史の概要を学ぶⅡ	この授業は、おおよそ近世～現代の日本史の概略を理解することが目的である。戦国時代の混乱を経て、織田・豊臣政権、続く江戸幕府という統一政権が成立することによって、日本の政治・文化・社会的な一体化が進む。その展開を理解することで、今日の日本のさまざまな伝統的要素への理解を深める。また江戸時代後期から幕末・明治維新时期にかけての政治・社会を知り、近代日本の成立過程を学ぶ。その後の日清・日露戦争と二つの世界大戦、及びこれらの戦間期の政治と社会を学び、日本と当時の国際社会との関係について理解する。その後、戦後について学び、現在の日本にたどり着く。近世・近代に「国」の枠組みが強化されていく点と、日本史の展開が世界史の中でどのような立ち位置なのか、理解できるようにする。	
	日本文学特論Ⅰ	日本文学全般を、ジェンダー、フェミニズムという視点で読み解く。古代から現代に至るまで、日本文学には家父長制の影響が色濃く見受けられること、そしてそのことが女性の描かれ方や女性の書いた文学テキストにどのように反映しているのかを具体的に解説する。また性の多様化＝ダイバーシティという観点で考えた場合に見えてくる、日本文学の新たな歴史を構想することも視野に入れている。授業では前半は講義形式とし、後半は受講生がそれぞれ具体的な作品を取り上げて分析し、発表を行う。そして全体でのディスカッションを通じてより深く学んでいく。	
	日本文学特論Ⅱ	前半は中学校の教材である村上春樹「バースデー・ガール」、後半は森鷗外「舞姫」を読む。1、2年時の学習をもとにして、まずは文学テキストを文学理論を用いて読解する。次にそれを教材に転換する。この一連の流れは極めて高度な営みとなるので、目的意識的に取り組むことが必要となる。ただ文学テキストを読むのではなく、国語教育との接点を考察する。そのために中学校および高等学校の国語の教科書に掲載されている近現代小説を、新たな視点で読み解き新しい解釈を提案することに挑戦する。そのことを通じて、新しい国語の授業を開発することに結び付けたい。	
	日本文化史特論Ⅰ	世界三大宗教の一つとされる仏教は、日本の政治・社会・思想にも大きな影響を与え、今でも日本人の多くがその檀家である。この授業では、その仏教の基礎知識と概略を知り、日本仏教の特質を理解することを目的とする。まずインドにおける仏教の誕生から始まり、インドでの展開、中央アジアをへての中国への伝播と変質、そして倭国への公伝、奈良・平安時代を経て日本的仏教とされる鎌倉仏教諸宗の成立までの歴史的展開を、仏教哲学的な観点も多少は交えながら、概略的に学ぶ。宗教と各時代・社会の関係、特に政治・社会との関係による宗教の変化の問題にも、注意を向けられるようになる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース専門科目）	日本文化史特論Ⅱ	日本固有の民族宗教とされる神道について、前史より始まってその成立から展開を、近代まで学ぶ。まず神道成立以前の、倭国社会における神観念や靈魂観を知り、続いて律令国家における神祇制度やその影響について理解する。また仏教との関係により、神祇信仰にさまざまな要素が加わり、いわゆる仏家神道が誕生して、やがて仏教から独立した神道が成立する経緯についても歴史的に理解する。さらに近世における神道の展開について、儒教やキリスト教の影響、そして国学の発展も踏まえて理解する。また明治維新後には、国家のイデオロギーとして、国民統合のために果たしたその役割を知り、戦後についても学んで、今後の日本文化と神道の関係についても考えられるようになる。	
	コンテンツ創作	思考したものをさまざまな形＝コンテンツによって表現する。それは文字であったり映像であったり絵であったり音であったりするだろう。この講座は、文芸創作、動画や映画創作、アニメーションや音楽など創作の技法について学び、最終的にはそれぞれの関心に基づいてコンテンツを創作し、発表する。それをお互いに批評することによって相互学習によるレベルアップを図る。	
	サブカルチャー論	今や、サブカルチャーは訴求力が高く、等身大の現代日本を伝えるものである。この講座ではライトノベルをはじめとしてアニメや映画、ゲームなどさまざまな媒体について学び、いかに現代日本の文化を形成しているかを具体的な作品に基づいて検証する。ただし、一方的に講義を聞くのではなく、学生自らが作品を取り上げそれを分析し、発表してレポートにまとめることを行う。	
	メディアのための文章表現	例えばある商品を宣伝する場合、どのような媒体を使ってどのような言葉でどのような表現を駆使するのか、が重要な決め手となる。消費者のニーズや関心に深く食い込むものでなければ、心に訴えることはできない。そのためには戦略＝シナリオが最も大切であり、そのシナリオに基づく言葉と文章表現が必須となる。 この講座では、そうした広告をはじめとしたメディアを取り上げ、シナリオ作りとリード文、キャッチコピーなど表現技術について学ぶ。具体的なメディア分析を行いつつ、実際にシナリオとキャッチコピーを創作する。最終的にはそれぞれの作品をコンテストに応募する。	
	日本文化のフィールドワーク	日本文化の痕跡はさまざまな場所に現れており、実際にその地を訪れて自分の目で見ることによって内容を深めることができる。例えば長崎では、多くの文学碑や歌碑が町中に点在し、作品に描かれた景観そのままを目にすることが可能な環境がある。また、長崎を舞台とした小説やアニメは現在進行形で制作されている。 この授業では文学作品やサブカルチャーの舞台となった場所などを実際に訪れ、座学ではこの場所で実際には何が起こったのか、なぜここが舞台として選ばれたのかなどを理解する。いわゆる「文学散歩」や「歴史散歩」をアカデミックに学ぶ授業であり、可能なら「聖地巡礼」にも及びたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース専門科目）	アナウンストレーニング	人は話し方一つで大きく印象が変わるものである。この授業では、発生や発音、滑舌のトレーニングをはじめ、人に伝わる話し方、好印象を与える話し方、メリハリや抑揚の付け方などを実践的に学ぶ。将来アナウンサーや司会業を目指す人はもちろん、人を相手にする職業を考えている人、一般の会社においても必要なプレゼンテーションのスキルを身につけたい人を対象としている。授業内では現役のアナウンサーの方をスポットで招き、トレーニングをお願いする。	
	日本文化特論	日本文化といってもそのフィールドは広く、ハイカルチャーからポップカルチャーまで幅広い。さらに世界的な視野で見ればカウンター・カルチャーも考慮する必要があるだろう。この講座では俯瞰的な視点に立って、世界の中の日本文化を考える。具体的にはハイカルチャーに属する伝統文化から今日的なポップカルチャーの相貌を、具体的な事象と作品の分析を通して考察する。その際に、それぞれの関心に応じて歴史や文学という一定の視点から眺められるように自主的に学びを深めることが求められる。	
	カルチュラル・スタディーズ I	日本史・日本文学の研究の方法の基礎(研究テーマの設定の仕方、研究論文・史資料の探し方、先行研究の引用の仕方や論のまとめ方等)を学ぶ。担当教員の解説を聞きながらも、受講生自らが模擬的にでも研究を実践することで、研究能力を修得することが目的である。またその研究結果を受講生がレポートとしてまとめることによって、研究能力の修得状況を振り返ることができる。受講人数によって、各回の内容を適宜調整する。この授業によって、初歩的な研究が行えるようになる。	共同
	カルチュラル・スタディーズ II	「カルチュラル・スタディーズ I」で身につけた初歩的な研究の方法を前提に、受講生各自のテーマに即して参考文献を検索し、関連する人物や事項についての正確かつ詳細な資史料の収集を行う。また発表資料を作成し、聞き手を意識した発表を行なう。夏休み前に担当教員と受講予定者とが相談して、夏期休暇中の課題を決める。受講人数によって、各回の内容を適宜調整する。以上により、日本文化を研究する基本となる、研究論文や史資料等の収集を本格的に行なえるようになる。また関連する文献を読み、テーマ全体を把握できるようになる。後半では、4年次に作成する卒業論文のテーマにつながる課題を選び、そのための準備をする。	共同
	カルチュラル・スタディーズ III	3年次に学んだ研究方法と基礎知識に基づき、具体的なテーマについて、高度な研究を進めることができるようになることが授業の目的である。受講生は、自らの関心に従って研究したいテーマを決めて、担当教員に申告する。そのテーマについて、調査研究の方法を考えて研究計画を立て、授業で報告する。授業では他の受講生とのディスカッションを行い、また担当教員の指導を受けることで、調査研究の方法を改善し、場合によっては適当なテーマへの変更を行う。また、実際に研究計画に基づいて調査研究を開始して、途中でその成果をまとめて報告する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目（コース専門科目）	日本文化コース カルチュラル・スタディーズⅣ	「カルチュラル・スタディーズⅢ」で取り上げた研究テーマについて、その専門領域における手法に基づいて、研究を進めて完成させることが目的である。「カルチュラル・スタディーズⅢ」で決めた研究テーマについて、受講生が調査研究を進める。授業の時には、研究の途中経過を報告する。その上で、他の受講生とのディスカッションを行い、もしくは担当教員の指導を受けて問題点を見つけたり進捗状況を確認したりする。これによって論証の改善、調査の追加等を行い、研究を完成させる。	共同
	マーケティング論	マーケティングは経営学の一分野であり、「商品売るための仕組みづくり」を学習する分野である。本講義では、企業活動のひとつである「マーケティング活動」の全体像を俯瞰する。なお、本講義では一部の授業回でノートパソコンを用いた演習を取り入れる予定である。 本講義では、企業における一連のマーケティング活動を俯瞰できるようになることが目標である。具体的には、「①マーケティング・リサーチの方法やマーケティング戦略の立案について、自らの言葉で説明できるようになる」、「②最新のマーケティング事情を自らの力で調査し、説明できるようになる」ことが学修到達目標となる。	
	地域・ビジネスコース マスコミュニケーション論	この授業では、マスコミュニケーションの世界を体系的に学んでいく。マスコミュニケーションの構造と機能、流れを、古典研究からたどり、マスコミの全体像にせまる。いまや巨大な存在となったパーソナル・メディアを取り上げるとともに、流言やフェイク・ニュースなど、私達に身近な問題にも触れる。また、批判的思考力を育成するため、社会問題に関するディベートを行う。さらに、新聞コラムを想定した記事を実際に執筆し、受講生同士で意見交換を行い、教員からのフィードバックを受ける。このようにして、情報を伝える側のモラル、需要する側の姿勢など、今後必要とされる知識とスキルを実践的に身につける。 到達目標は、(1)メディア研究における基礎理論を理解し、説明することができる。(2)氾濫した情報を正確によみとることができるようになる。(3)批判的思考(物事的前提を疑って多角的に洞察していく思考法)を身につけ、日常生活の課題に取り組む事ができる、の以上3点	
	簿記・会計論	簿記は、企業をはじめとするあらゆる組織の状況を「数値情報」を通じて可視化することができる技術である。本講義では、企業(組織)における簿記の役割を学習する。その上で、仕訳・転記・決算という簿記の一連の手続きについて基礎的内容(日商簿記検定3級程度)を学習する。さらに企業が利害関係者(株主や債権者など)に対して、経営成績や財政状態を報告する目的で実施する「財務会計」の内容について、基礎的な内容を学習する。具体的には、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書という財務諸表3表の記載内容を読み取ったり、実際に財務諸表3表を作成・公表する際に必要となる知識を学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 （ コ ー ス 専 門 科 目 ）	地域経済学	<p>地域経済学は、都市への人口集中・地方の人口減少問題を中心に、経済学が対象範囲とする様々な地域課題の分析とその課題解決に向けた方法を導く分野である。本講義では、長崎県をひとつの事例として、地域にまつわる様々な指標（データ）の収集・整理・分析の学びを通じて、根拠に基づいた地域課題解決の手法を修得する。なお、本講義ではオープンデータベース（地域経済分析システム（RESAS））を利用して授業を進める。 （RESAS Web サイト：<a href="https://resas.go.jp/#/13/13101">https://resas.go.jp/#/13/13101</a>）</p> <p>本講義では、様々な地域経済指標（データ）に基づいて地域課題の把握やその解決ができるようになることを目標とする。具体的には、「(1) 地域経済指標に基づいて地域経済をはじめとする地域の諸課題の現状が説明できるようになる」、「(2) 地域経済指標を自らの力で分析し、地域課題解決の提案ができるようになる」の2つを学修到達目標とする。</p>	
	ビジネスデータ分析	<p>本講義では企業をはじめとする組織に存在する膨大なデータを収集し、整理し、分析する基礎的手法について理解を深めることを目標とする。具体的には、統計学の基礎的な考え方や統計解析手法を講義と演習（表計算ソフトウェアを用いたPC演習）を交えて、データ分析スキルを修得できるようにする。</p> <p>到達目標は、(1) データの扱い方や統計解析を行う上での注意点を説明できる。(2) 状況に応じた統計解析の手法を選択・実践できる。(3) 与えられたデータから必要な情報を読み取ることができる、以上3点とする。</p>	
	観光学	<p>「観光」は、私たちの生活を豊かにするものである。本講義では、「観光」をキーワードにそれらに関連する経済・産業・政策の現状と課題、これからのあり方を幅広く講義する。</p> <p>本講義では、観光産業の現状とこれから、国内外の観光政策・まちづくりの事例、とみに衆目を集めている観光プログラムについて俯瞰する。それら観光学の学びをもとに、自らの言葉で「私たちの生活における観光の意義」を説明できるようになることが学修到達目標である。</p>	
	公共経営論	<p>政府（公共）・市場（事業者）・市民社会（コミュニティ）の三者の協働によるガバナンス（統治）体制すなわち「公共ガバナンス」がある。この授業では、公共ガバナンスの概念形成過程と、ガバナンスに関わる計画・事業の事例・制度・手法の歴史的展開について解説する。また、長崎における公共経営の事例として、平和活動への取組みに関して討議を深める。</p> <p>公共経営はさまざまなステークホルダーが相互価値を提供しながら連携して経営を行っていくであり、行政経営はそのなかの一部分である。官民が連携を深めながら社会の諸問題の解決を図ることが求められる。</p> <p>授業では下記3点を到達目標とする。</p> <p>(1) 民間企業と自治体との連携について具体的に説明することができる。</p> <p>(2) 民間委託等の手法における課題と対応を具体的に説明することができる。</p> <p>(3) PPPの現状が手法の相違とともに具体的に説明できる。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 （ コ ー ス 専 門 科 目 ）	女性起業論	<p>本授業では、ゲストスピーカーの講話と商品企画のグループワークから起業の視点を学ぶ。前半は、実際に起業した女性や起業の支援業務を行う方々に現場の話を伺い、起業に対する具体的なイメージを膨らませる。後半は、ビジネスコンテストの課題に取り組みながら、マーケティングの基礎を学び、起業に必要となる考え方や社会で求められるプレゼンテーションスキルを身につける。最終プレゼンテーションでは、経済活動の現場で活躍する社会人から評価を受ける。このようにして、社会課題をビジネスとして解決するための考え方、方法論を実践的に学んでいく。</p> <p>学修到達目標は、(1)女性による起業をめぐる現状と今後の展望について基礎的な知識を習得し、説明できるようになる。(2)商品(サービス)企画という具体的なテーマに取り組むことを通じて、他者と協働する力や他者を説得する力(プレゼンテーション力)を高め、課題や目標を達成するための行動計画が立てられるようになる、以上2点。</p>	
	キャリアデザイン実習Ⅱ	<p>この授業は、地域・ビジネスコースの学生を対象に開講されるものである。2年次に履修したキャリアデザイン実習Ⅰでの学びを踏まえた発展的な科目としての位置づけを持つ。大学での学びを地域社会でどのように活かすのかを実感し、就業力・社会力・汎用的能力を身につけるために長期にわたって実施する実習プログラムである。地域の企業や自治体等で行う2か月間の実習と、その前後に行う学修を通じて、「実践的に取り組む能力」の開発と「主体的に取り組む能力」の養成を図る。学修到達目標は、(1)職業観、社会観を養い、具体的な目標を設定して進路に対する考えを明確化することができる。(2)就業体験(実習)を通して学んだことを言語化し、「気づき」を「経験」として定着させるとともに、他者にわかりやすく的確に伝えることができる。(3)今後の学業や就職活動にどのように生かすかを具体的に考え、行動計画を立てることができる、以上3点。</p>	共同
	まちづくりプログラムⅠ	<p>この授業は、まちづくりプログラムⅡとの連続で、地元自治体や企業・諸団体との連携のもとで、より良いまちづくりを実践的に学ぶ。プログラムⅠでは、まず、長崎という地域の特色、課題について概要を学んだあと、自治体担当者等をお招きしてその背景や具体的な対策の現状について理解を深める。</p> <p>次いで、より良いまちをつくるために自分達ができることは何かについて考え、具体的な計画を立て、プレゼンテーションを行う。その過程でフィールドワークを行う。</p>	
	まちづくりプログラムⅡ	<p>この授業は、まちづくりプログラムⅠとの連続で、地元自治体や企業・諸団体との連携のもとで、より良いまちづくりを実践的に学ぶ。特にプログラムⅡでは、プログラムⅠで策定した計画を実現させるための方策を学ぶ。それぞれの方策を実現するための工程表を作成することによって時間的な計画の仕方を学び、必要な予算・その確保を通じて資金計画の立て方を学ぶ。さらに関係各所との協議を実践することによって自分達が策定した計画を地域で実現するための方法を探求していくこととする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 （ コ ー ス 専 門 科 目 ）	地域・ビジネス特講	<p>本コースは、地域・ビジネスという実社会に直結した領域を学ぶコースであるが、このような領域では、従来の枠組みでは捉えることできない新たな問題が日々生起している。</p> <p>この授業では、様々なテーマを柔軟に設定し、学生が時代に合わせた確かな実践力を身に付けることを目標とする。よって、授業内容はテーマによって異なり、担当教員も授業内容によって適切な教員を起用することとなる。このことによって、学生は既存のテーマの枠にとらわれない、学際的・先進的な学びを行うことが可能となる。</p>	共同
	地域・ビジネスセミナーⅠ	<p>本セミナーでは、「地域」や「ビジネス」をメインテーマとして、社会で生じる様々な課題について、各自が自分のテーマを持ち、研究・考察を進める。そのための準備段階として、文献購読やフィールドワーク、個人レポートの発表を行い、議題をしばってディスカッションを行う。議論することで、自分の考えをわかりやすく伝えることや他者の考えに触れ共有することの大切さを学び、研究を行う上で必要となる多角的に分析する力や論理的な思考力を身につけていく。</p> <p>学修到達目標は、(1) 社会の諸問題について情報を集め、多角的な視点から考察し、自分の考えを述べることができる。(2) 各自が設定した小テーマについて、それを探求・調査・分析するためのスキルを身につけ、実施することができる。(3) グループワークやディスカッションを通じて自己理解や他者理解を深め、自身のキャリアデザインに生かすことができる、以上3点。</p>	共同
	地域・ビジネスセミナーⅡ	<p>本セミナーでは、「地域」や「ビジネス」をメインテーマとして、社会で生じる様々な課題について、各自が自分のテーマを持ち、研究・考察を進める。「地域・ビジネスセミナーⅠ」で行った社会人とのディスカッションやフィールドワークでの経験も合わせながら、自ら問いを立て、調査・分析を行い、考察を深める。また、ゼミ生同士で意見交換を行うことで、自身の研究の位置づけを明確にし、卒業論文の構成を確立していく。</p> <p>学修到達目標は、(1) 地域・ビジネスセミナーⅠの学修を踏まえ、社会の諸問題について、さらに深い検討ができるようになる。(2) 各自が設定したテーマについて、それを調査・分析する方法を身につけ、論文のアウトラインを作成することができる。(3) 発表や議論を通じて、自らの考えを理論的、説得的に他者に伝えることができる、以上3点。</p>	共同
	地域・ビジネスセミナーⅢ	<p>「地域・ビジネスセミナーⅡ」までに培ってきた研究・調査経験を活かしながら、自分が決定した卒業論文のテーマや研究・調査方法によって、調査・論文執筆を進める。毎回の授業では、研究(論文執筆)の経過報告を行い、他の受講生や教員とのディスカッションを通じて考察を深めていく。必要に応じて、教員による個別指導も実施する。学修到達目標は、(1) 地域・ビジネスセミナーⅡまでの学修を踏まえ、自分が設定したテーマについて、それを調査・分析する方法を決定し、調査・論文執筆を進めることができる。(2) 発表や議論を通じて、自らの考えを理論的、説得的に他者に伝えることができる、以上2点。</p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域・ビジネスセミナーⅣ	<p>これまでの「地域・ビジネスセミナー」で培ってきた研究・調査経験を活かしながら、自分が決定した論文のテーマ、調査方法によって、卒業論文を完成させる。</p> <p>毎回のセミナー内では、論文執筆の経過報告を行い、他の受講生や教員とのディスカッションを通じて考察を深め、より説得力のある論文にまとめていく。教員による個別指導も実施し、最終的にアカデミックな論文の完成を目指す。</p> <p>学修到達目標は、(1)これまでの「地域・ビジネスセミナー」での学修を踏まえ、自分が決定したテーマ、調査方法によって研究を進め、論文にまとめることができる。 (2)発表や議論を通じて、自らの考えを理論的、説得的に他者に伝えることができる、以上2点。</p>	共同